正大・治明・末幕

史年十八顧回

第十八輯

東京・東洋文化協會・發行

◎口繪解說◎

◎『神聖なる協力』（シャルル・アタミアン畫）　竹田錫吉氏藏

世界大戰中佛國にて發行せる聯合國の協力一致を描いたものである。各國々旗の中に米國々旗のないのは此繪の發行の時迄には米國は對獨宣戰を成さなかつた爲である。米國の參戰は大戰の峠を越えて漸く聯合國側に勝利の兆が見え出した時に參加したのである。下の方の署名は我媾和全權牧野伸顯男の署名で、實に媾和條約に署名せられたる其記念すべき萬年筆を以つて、條約締結の日に署名されたもの、實に大戰記念としては絶好の記念品である。所藏者の竹田氏は牧野全權の隨員として媾和會議に出席し、裏面にあつて大活躍をせられた功勞者である。

◎『大戰中のポスター』

各國美術界の巨匠の筆になるポスターであつて、中にも圖案と色彩との最も藝術的なのは矢張佛國のものである。米國は端的に意志表示をして如何にもヤンキー氣質を現はして居る。ドイツのものは力強き表現の下に觀者に肉迫する所があり、特に戰後の怠業防止のポスターには優れたものが多く又藝術的なものがある。英國のものは常識的で斬新な所がない。ドイツは宣傳戰に於いて完全に敗北したのであつた。

幕末
明治
大正

回顧八十年史

第十八輯 目次

口繪（原色版）

『神聖なる協力』『ンヤルル・アタミアン畫』……竹田錫吉氏藏
『大戰中のポスター』……

玻璃版

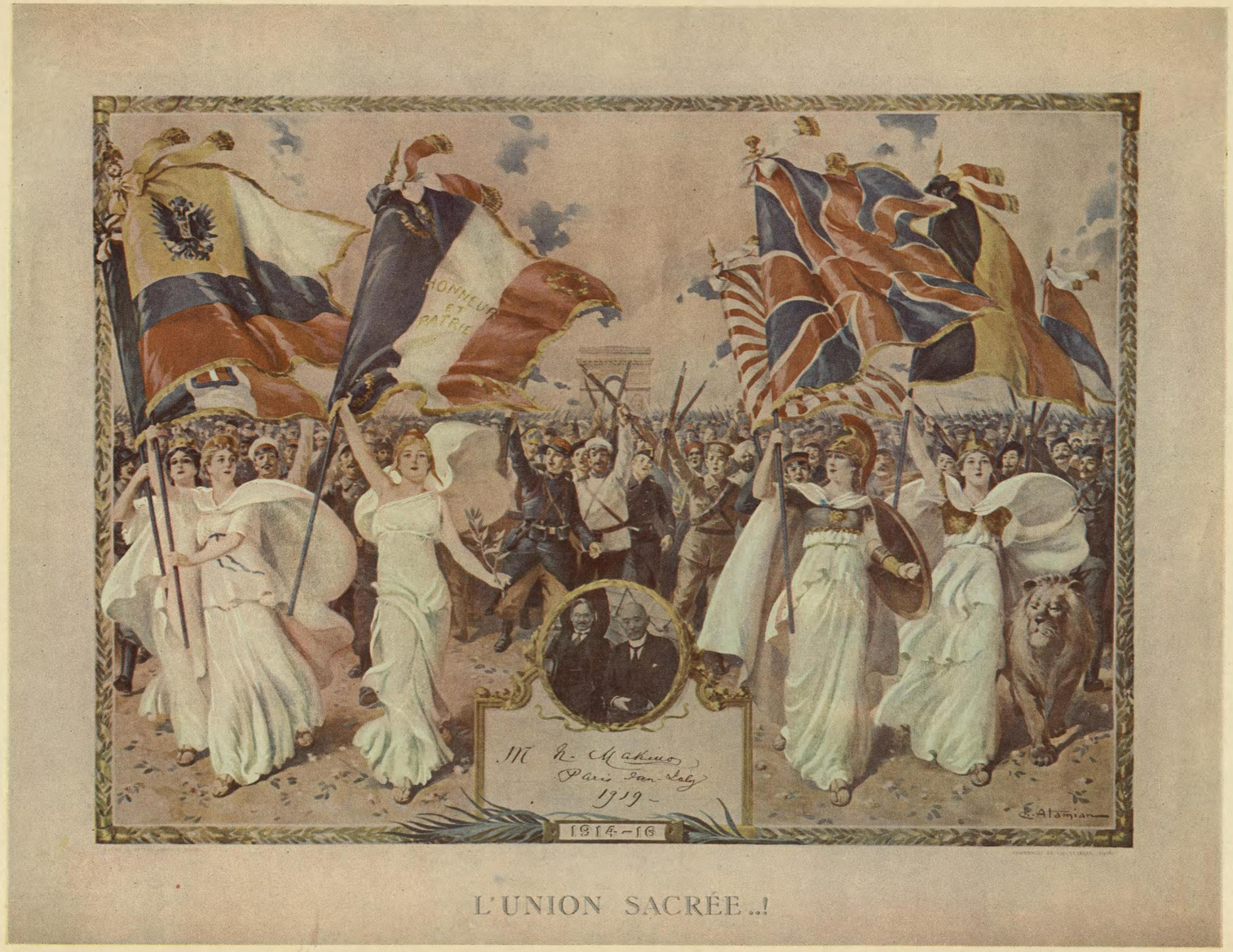
世界大戰……
墺國皇太子及び皇太子妃市廳より自働車に乘御せられんとす、暗殺せられたる墺國皇太子及び皇太子妃、暗殺者プリンツエプの逮捕の瞬間、ボスニアの首府サラエボ市。
開戰當時の獨・露・土の示威運動……
ペトログラードに於ける愛國行列、土耳古コンスタンチノープルに於ける對露開戰の示威運動、伯林に於ける國民の示威運動。
各交戰國元首……
英國皇帝ジョーデ五世陛下、白耳義皇帝アルバート陛下、伊太利皇帝エマヌエル三世陛下、フランス大統領ポアンカレー氏、米國大統領ウイルソン氏、セルビヤ皇帝ピーター一世陛下、ロシヤ皇帝ニコラス二世陛下、オーストリー皇帝ジヨセフ一世陛下、ドイツ皇帝ウイルヘルム二世陛下、大正三年八月二十三日ベルギーモンスの戰に指揮しつゝある獨逸皇帝、大正六年三月の革命によりツアールスコエ・セロ宮殿內に幽閉中のニコラス二世陛下。
獨逸の中立侵犯……
ルクセンブルク公國に進入せるドイツ步兵、ドイツ砲兵隊の進軍、ドイツ騎兵斥候、出征ドイツ軍に對する獨帝の親閱。
ブラツセルの陷落……
白耳義タンモンドを警備中の白耳義軍、メルケン村の慘狀、白耳義騎兵隊タンモンドに歸還警備に就く、ブラツセルに進入せる獨逸の驃騎兵。
獨逸の極東根據地青島……
青島大港起工式、獨逸の膠洲灣占領記念碑、獨逸租借當時の青島市街と膠洲灣。
青島攻略（一）……
青島攻圍軍總司令官陸軍中將神尾光臣、第二艦隊司令長官海軍中將加藤定吉、ドイツ青島總督ワルデツク、英軍司令官バーナージストン少將、大正三年十一月十六日の青島入城式、青島東吳家村より臺東鎭道路上の獨軍副防禦、大正三年十月三十一日我重砲隊の猛擊、大正三年十一月七日占領せしビスマーク砲臺の二十四珊砲の慘狀。
青島攻略（二）……
青島獨軍の僞砲、青島攻擊中の我野砲陣地、爆破せし臺西鎭砲臺、イルチス砲臺占領の第五十六聯隊。
軍艦高千穗の爆沈……
爆沈せる軍艦高千穗と艦長海軍大佐伊東祐保、艦長伊東祐保の遺品、築地水交社に於ける葬儀。
青島陷落祝賀會……
東京市祝賀會、公園內群集の萬歲唱和、東京市の花電車、青島攻圍軍の天長節祝賀會。
オステンドの陷落……
オステンド海岸ホテルの慘狀、戰前のオステンド停車場、オステンド停車場の殘骸、オステンドより避難の最後の市民。
ヘルゴランド及びドッガーバンクの海戰……
沈沒しつゝある獨艦マインツ號、大火災に罹れるマインツ號、ブリユツヘル號の覆沈、ヘルゴランド沖に出動の獨逸水雷戰隊。

獨領南洋諸島の占領……四五三
大正三年十月一日コロール島守備隊本部に建てられたる布告立札、我海軍の最初に占領せしヤルート島土人の カヌー船、ヤルート島守備隊本部、マリアナ群島のサイパン島カナカ土人家族、陸戰隊の上陸。
エムデンの最期……四五四
獨巡洋艦エムデン號、エムデンの最期と艦長フオン・ミューラー、シドニー號及びエムデンの航跡圖。
英國義勇兵の出發……四五五
スコットランド兵のウオータールー驛出發、ハイドパークに集まれる英國義勇兵、義勇兵募集のポスター、義勇兵の出發。
東部戰線……四五六
東部戰線に督戰中の露軍、ベルグラード東方ダニューブ河附近に於ける露軍砲兵、セルビヤに進入せるブルガリヤ軍、塹國々境に輸送しつゝある露軍
大戰中の各國軍司令官……四五七
獨逸ヒンデンブルグ元帥と其署名、英軍總司令官ヘーグ將軍、露軍右翼司令官レンネンカンプ將軍、露軍左翼司令官ジリンスキー將軍、佛國フオツシュ元帥とジョツフル元帥、米軍司令官パーシング將軍、伊軍司令官ディアズ將軍。
西部戰線・アルゴンヌの戰……四五八
佛軍の野戰風呂、アルゴンヌ森林中の佛軍の鹿柴急造、アルゴンヌ森林中の佛軍。
ヴエルダンの激戰……四五九
ヴエルダン要塞北方森林中の佛軍砲彈、ドーモン要塞の慘狀
ソンム戰線……四六〇
砲彈上に假睡する兵士、ソンム附近占領地道路修繕中の英軍、ソンム戰線英軍陣地の砲彈檢査。
西部戰線に於ける英軍……四六一
敵砲を點檢する英軍、英軍塹壕内のシチュー分配、獨機に應射する英軍ルイス高射機關銃、ソンム戰に於ける鹵獲品の一部、塹壕内の英軍歩兵。
日露新協約の成立……四六二
外相官邸に於ける日露協約祝賀會記念撮影、遣露大使閑院宮載仁親王殿下、東京に於ける祝賀會、大阪の祝賀會、横濱の祝賀會。
露國の革命・ロマノフ王朝の滅亡……四六三
退位せる露國皇帝及び皇后、ペトログラードの革命戰、ペトログラードに於ける革命市街戰、ウラジホに於ける革命政府成立祝賀會、過激派首領レニン、過激派首領トロツキー。
獨逸潛航艇の活躍……四六四
大戰中に於ける獨逸潛航艇の建造、英國大艦隊根據地オークネー島の潛航艇防禦の防材、英國哨戒艇の警戒、獨逸の無制限潛航艇戰一ケ年間の成績。
大戰中の潛航艇戰……四六五
ダーダネルス戰に偉功を奏せる英國潛航艇イー十一號のペリスコープの彈痕、イー十一號艇の凱旋、ヘルゴランド沖哨戒中の獨逸潛航艇、獨逸潛航艇の砲戰、獨逸潛航艇の英船擊沈 爆撃されつゝある英國潛航艇。
ジユツトランドの大海戰……四六六
英司令長官ゼリコー大將、英司令長官ビーチー中將、獨司令長官シエーアー中將、根據地に於ける英國大艦隊、英艦クイン・メリーの爆沈、英獨兩艦隊行動圖。

記事

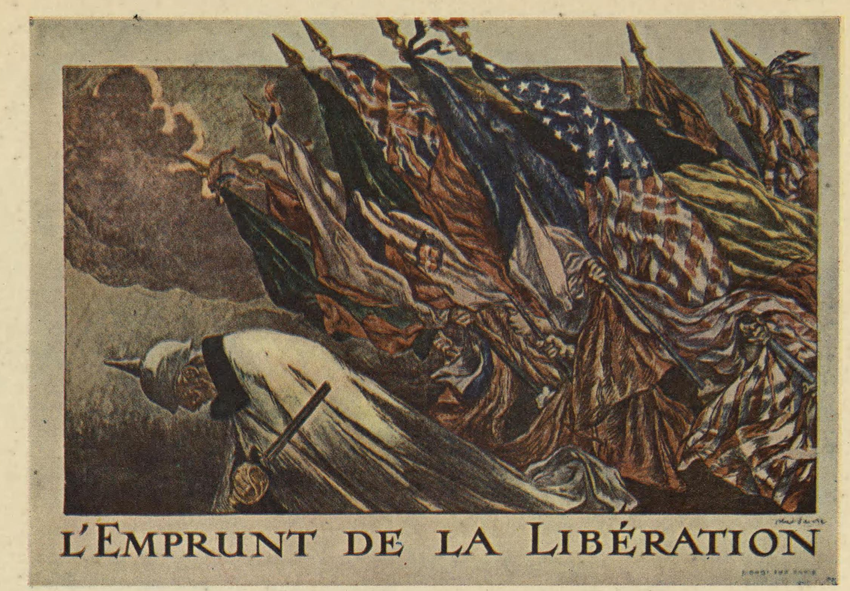
世界大戰史

總說……塡洪國皇儲暗殺せらる……塡塞兩國の反目原因……兇變と塡獨兩皇帝……塡塞兩國の國交斷絶……列强間の折衝……愈々列國の宣戰は布告さる……英・佛・露三國の宣言・米國の調停提言……露國の對土宣戰……日本帝國政府の聲明……御前會議と對獨勸告……宣戰の詔書……巴爾幹方面の交戰……青島方面の戰況……日本海軍南洋諸島を占領す……東部戰線に於ける露獨兩軍……コウカサス及メソポタミヤ方面戰。



神聖なる協力（シヤルル・アタミアン畫）　竹田錫吉氏藏（禁轉載）

世界大戰當時聯合國の協力一致を畫いたものであるが此繪の發行當時は米國は對獨態度を明瞭にしないので聯合國の國旗の中には米國旗は畫いていない。下の署名は我媾和全權牧野伸顯男が媾和條約に署名した歷史的の万年筆を以つて條約調印の日に署名されたものである。竹田氏は當日全權一行に隨行して渡佛して會議には大に働かれた功勞者である。

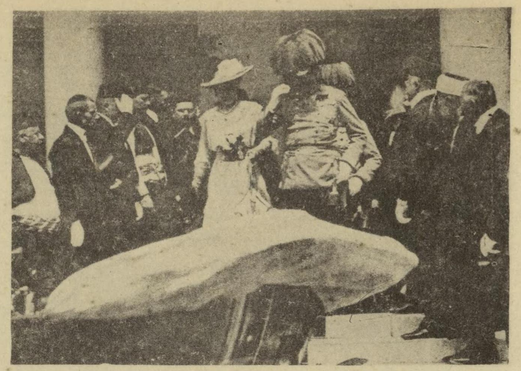


ー タ ス ポ の 中 戦 大

募員隊クンタ軍陸國米)『ろけつつやく酷小を等奴』。りよ右の下。(用傳宣酒ンバンヤシ)『榮光の國合聯』はぎ次其 。用傳宣止防業怠ツイド 。(用集募債公國佛)『債公攘撃』。りよ右は上
。(行發會員委集募會々國英)『か前お？……か誰はのいな居に中此』。(用集募金義業事濟救るす對に虜捕員闘戦非び及員闘戦のツイド)『だ日牲犠るす對に虜捕我は日今』は次其。(用集
(用傳宣止防業怠の後戦大のツイド)『く導に福幸へ與をンバが働勞りよ闇の地の滅敗』

暗殺せられたる墺國皇太子及び皇太子妃。右より。王子マキシミリアン。皇太子妃ソフイー。皇太子フエルヂナンド太公。第一王女ソフイー。第二王女エルネスト

八月二十三日日獨國交斷絶出征軍の東京新宿驛出發



墺國皇太子及皇太子妃市廳より自動車に乘御せられんとす、實に暗殺せらるゝ數分前の最後の寫眞である。

ボスニアの首府サラエボ市（右）

暗殺者プリンツエプ逮捕の瞬間（左）

大正三年（一九一四年）六月廿八日オーストリヤ皇太子フエルヂナンド太公及其妃ホーヘンベルグ太公主ソフイーと大演習統監の爲ボスニア首府サラエヴオ市に滯在中市廳歡迎會に臨席の歸途セルビヤの高等學校生ガブリロ・プリンツエプ（十九歳）の爲にピストルをもつて暗殺せられた。是實に世界大戰の導火線であつて一ヶ月後にして全歐洲は修羅の巷となつてしまつた。寫眞は犯人の逮捕引致せられんとする瞬間である。

一九一四年（大正三年）六月墺洪國第十五、十六兩軍團はボスニヤ。ヘルセゴヴイナ二州に於いて大演習を行ひ其終了の翌日の二十八日墺儲フエルヂナンド太公及び同妃はサラエボ市に入り自動車にて市廳に向ふ途中爆彈を投ぜられたが皇儲及び同妃は無事市廳に入り其歸途ピストルを以つて暗殺せられたのである。時に五十二歳であつた。墺國皇帝は先きに、皇子は自殺、皇后は暗殺、皇弟は狩場にて暗殺されたが皇后の妹はバリにて焚死し、ルイ侯及びヨハン太公は溺死し今は皇帝唯一の皇甥なる皇太子フエルヂナンドを失はれて『嗚呼、此世には最早朕が爲には何物をも殘さず』と歎息せられたと云ふ。

開戰當時の獨・露・土の示威運動

伯林に於ける國民示威運動
（大正三年七月二十五日）

上、ペトログラードに於ける愛國行列、冬宮前の光景（大正三年）
左、土耳古コンスタンチノープルに於ける對露開戰の示威運動（大正三年）

墺洪國がセルビヤに宣戰するや露國はセルビヤと同人種なる關係よりセルビヤを助け、トルコは露國とは宗教を異にして相爭ひ（マホメツト教と基督教）互に仇敵である。ドイツは即ちベルリンよりバグダツドに至る中東鐵道の敷設計畫よりトルコを抱き込み露國がダーダネルス海峽を出でんとするのを防がんが爲に老大國土耳古に陰謀を廻らしたものである

故にバルカン半島に於ける此暗殺は實に列國利害衝突の薪に油を注ぎたいものと云ふべく互に一擊に解決せんとして遂に大亂を見たものである。

各交戰國元首

セルビヤ皇帝
ピーター一世陛下

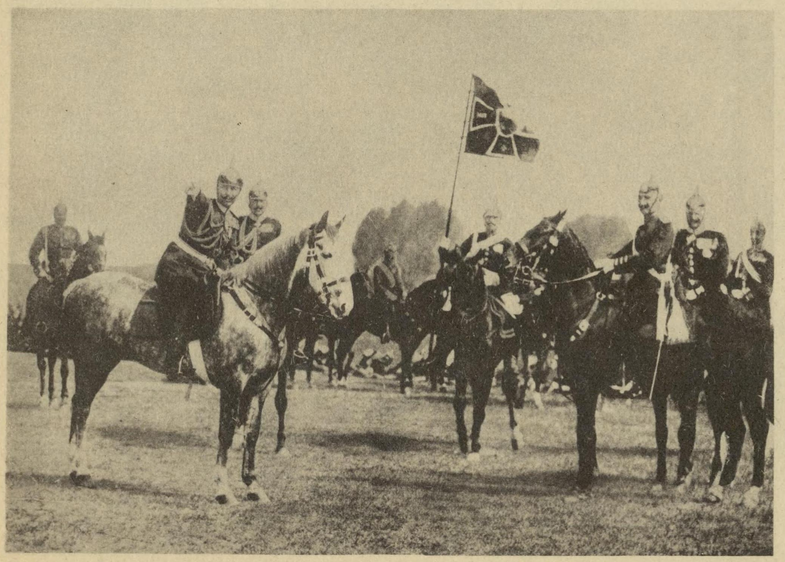
米國大統領
ウイルソン氏

フランス大統領
ポアンカレー氏

伊太利皇帝
エマヌエル三世陛下

ベルギー皇帝
アルバート三世陛下

英國皇帝
ジヨージ五世陛下



大正三年八月廿三日ベルギーモンスの戰に指揮しつゝある
獨逸皇帝

ドイツ皇帝
ウイルヘルム二世陛下（下）

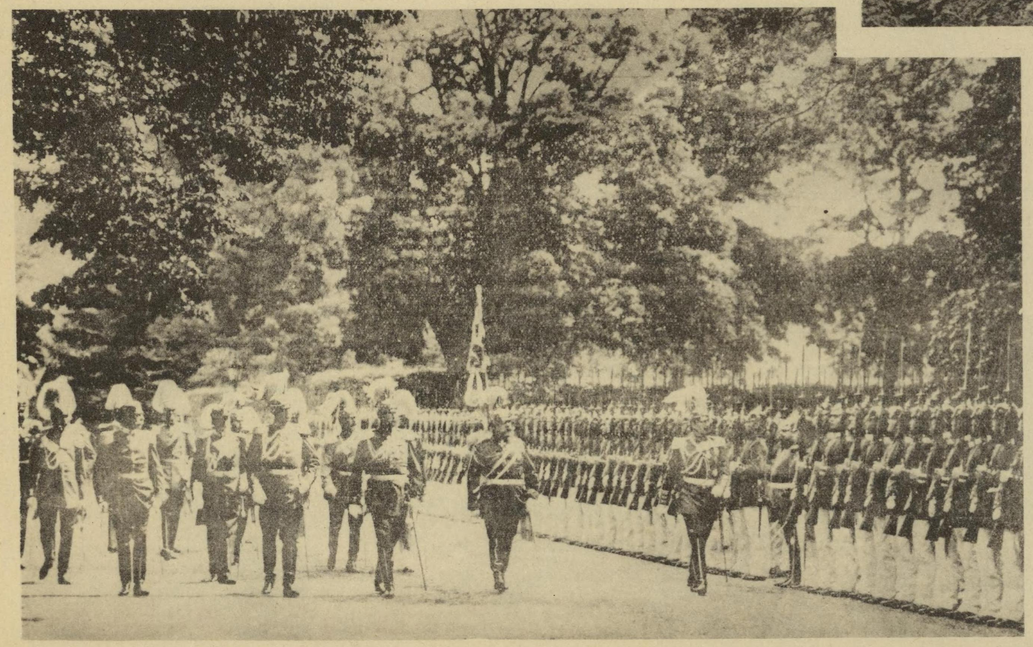
ロシヤ皇帝
ニコラス二世陛下（上右）
オーストリー皇帝
フヨセフ一世陛下（上左）

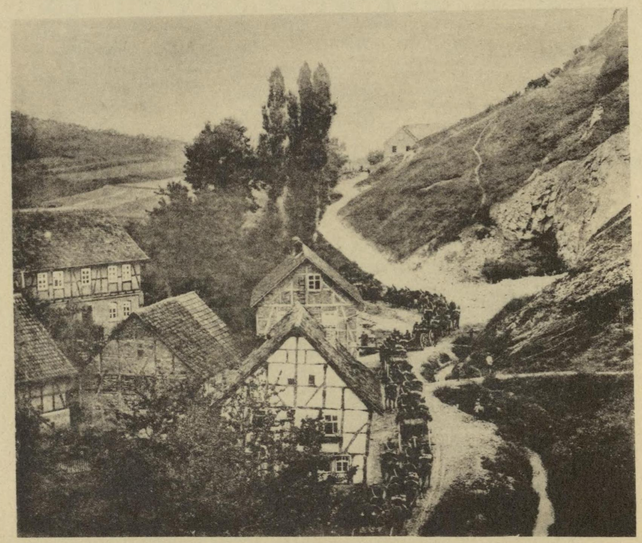
大正六年三月の革命によりツアールスコエ・セロ
宮殿内に幽閉中のニコラス二世陛下

獨逸の中立侵犯

上、ドイツ騎兵斥候
下、出征ドイツ軍に對する獨帝の親閲

上、ルクセンブルグ公國に進入せるドイツ歩兵（大正三年八月二日）
下、ドイツ砲兵隊の進軍

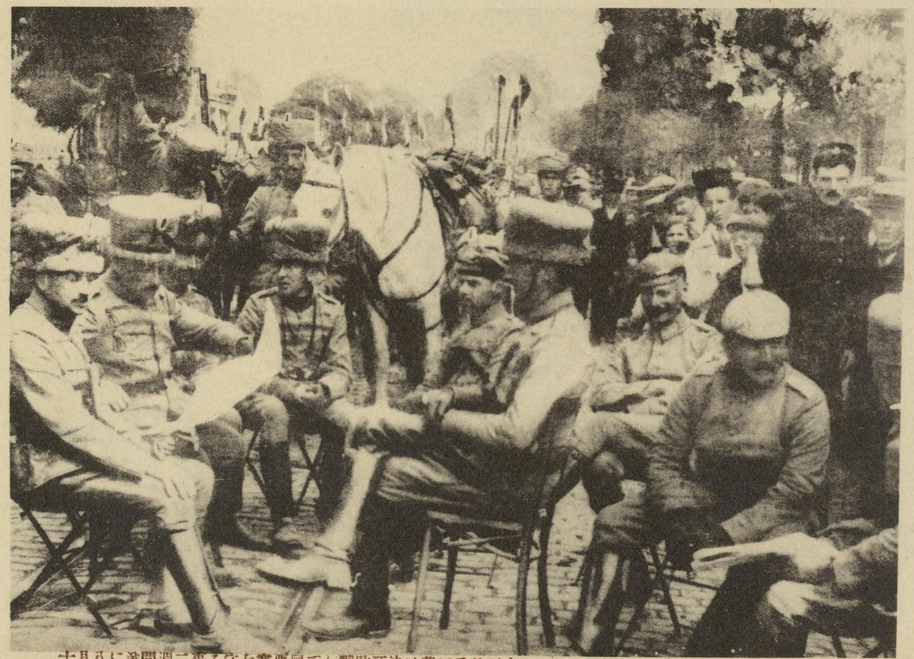




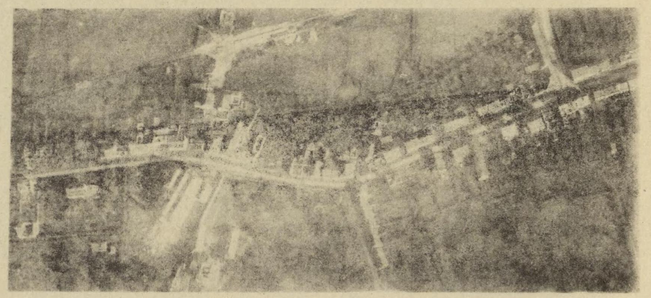
獨逸軍が佛國を攻撃せんが爲には必ず白耳義及びルクサンブルグ公國を通過せざるべからず然るにルクサンブルグは永世中立國なるに拘はらず獨軍は軍事上の目的より之を侵犯して進撃し次いで中立國なるベルギーをも侵して大正三年八月四日には既に獨軍は國境を越えて白耳義領に侵入した。而も兩國の抗議に答へて獨首相ベトマン・ホルウエヒは『吾人は今必要の狀態にあり、而して必要の前には法律なし、ルクサンブルグ及びベルギーの正當なる抗議をも吾人は余儀なく蹂躙せざるべからず』と八月四日議會で公言したのである。

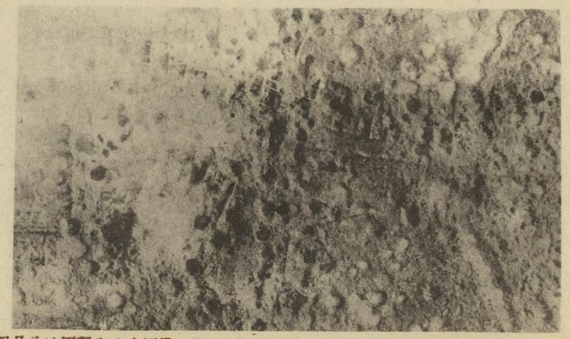
ブラッセルの陥落

左　白耳義タンモンドを警備中の白耳義軍



右、ブラッセルに進入せる獨逸騎兵（大正三年八月二十一日）
上、白耳義騎兵隊タンモンドに歸還警備に就く（大正三年八月二十日）

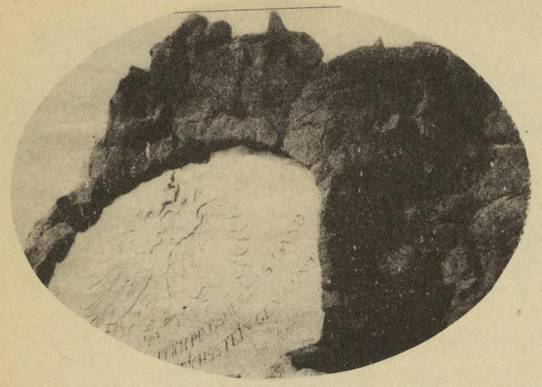




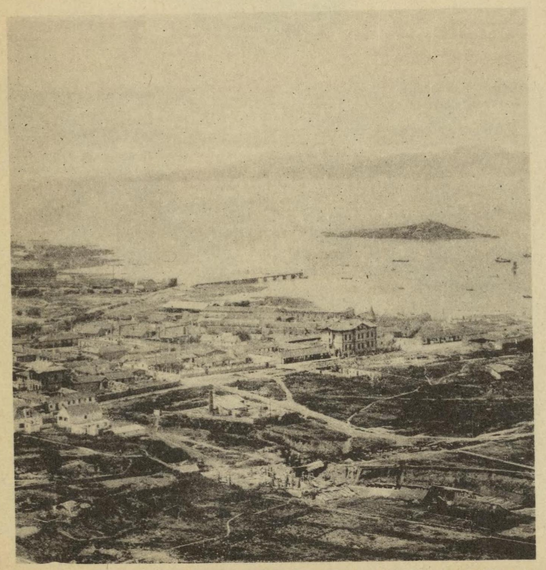
上及び左。メルケン村の慘狀。白耳義のメルケン村の有樣で中圖は戰前の有樣、左圖は獨軍の砲擊によつて壞滅に歸した同村の空中寫眞

獨逸が白耳義の抗議を無視して領土内に進軍するや獨軍は八月四日リエーゼの要塞を攻撃し、守將レマン中將以下の白耳義兵四萬は決死防戰して同要塞を守る事二週間遂に八月十八日陷落したが、此防戰の爲に獨軍の佛國進入の時期は數週間の遲延を來したのである。而して八月廿一日獨軍がブラッセルに進入せる爲白耳義政府は無防禦のブラッセルを捨てアントワープにに遷都したが獨軍は砲二百門を以つて攻撃し遂にアントワープ要塞も十月九日に陷落した。

獨逸極東根據地青島

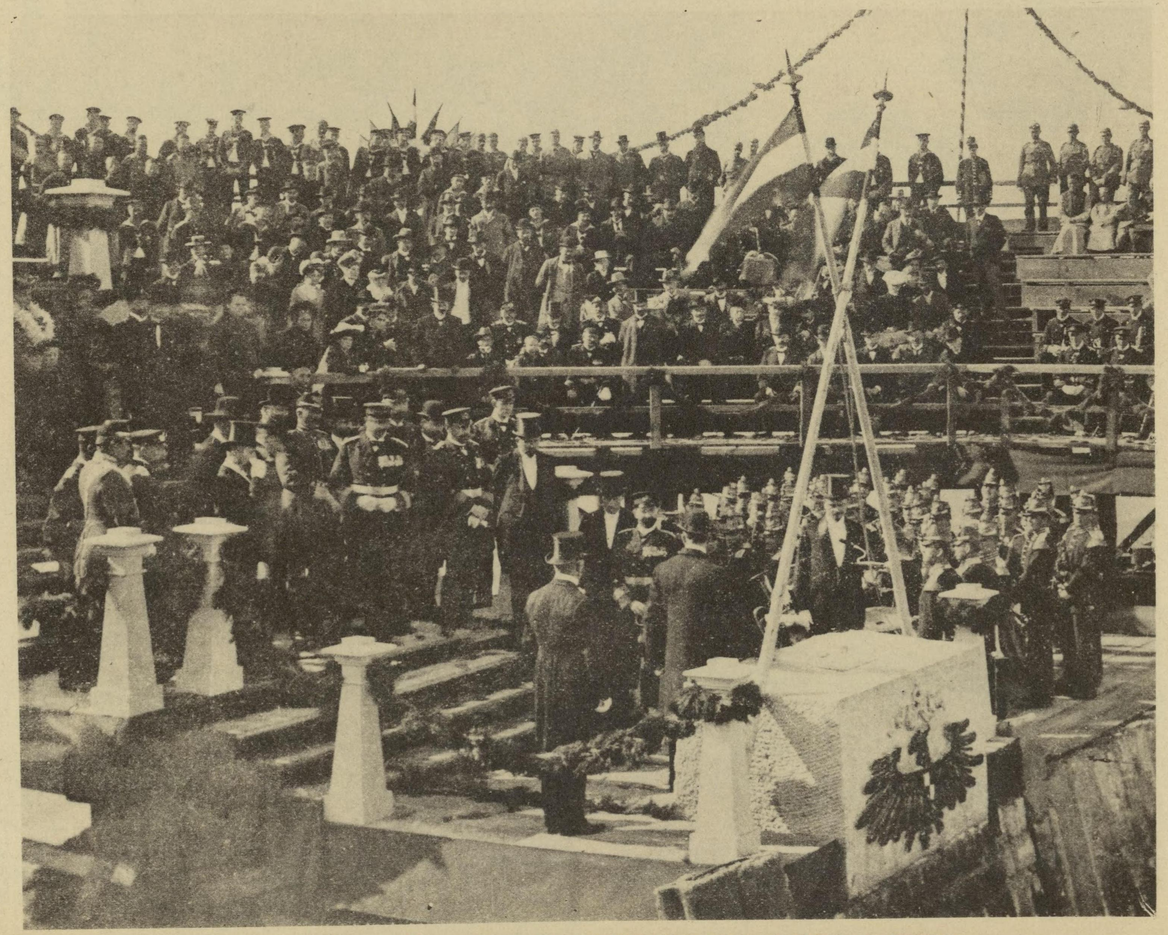


上、獨逸の膠州灣占領記念碑
我軍の占領と共に取外し現在は遊就館に陳列せられて居る
下、獨逸租借當時の青島市街と膠州灣



青島大港起工式

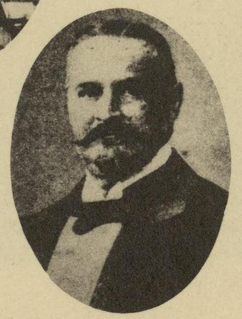
一九〇一年(明治廿四年)青島大港起工式の有樣で總督ローセンダール海軍大佐出席の下に華々しく擧式された當時は人口
僅かに一萬五千百餘人であつたが、ヲルデツク總督就任の一九一〇年(明治四十三年)には人口實に五萬以上の大發展を爲
したのである。



日清戰爭によつて我國の獲た遼東半島は露獨佛三國の爲に極東平和に害ありとして干渉せられて那支に還附を餘儀なくされたが、而も獨逸は明治廿一年宣教師二人が山東省巨野に於いて土人の爲に殺害されたる理由として無理に支那より膠州灣を租借し其次十七年間に四億マークを投資し三十二年一月一日には濟南鐵道と鑛山發掘權を獲得し後に租借地は七百
于一百平方キロメートルに擴張して永久施設を施したものである。

青島攻略（一）

青島攻圍軍總司令官
陸軍中將　神尾光臣（上）

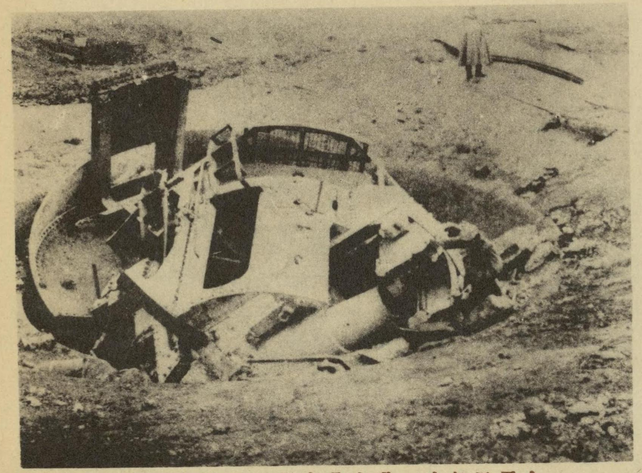


ドイツ青島總督
ワルデック（下）

大正三年十一月十六日の青島入城式
（歩兵第五十六聯隊）

第二艦隊司令長官
海軍中將　加藤定吉（上）

英軍司令官
バーナーストン少將（下）



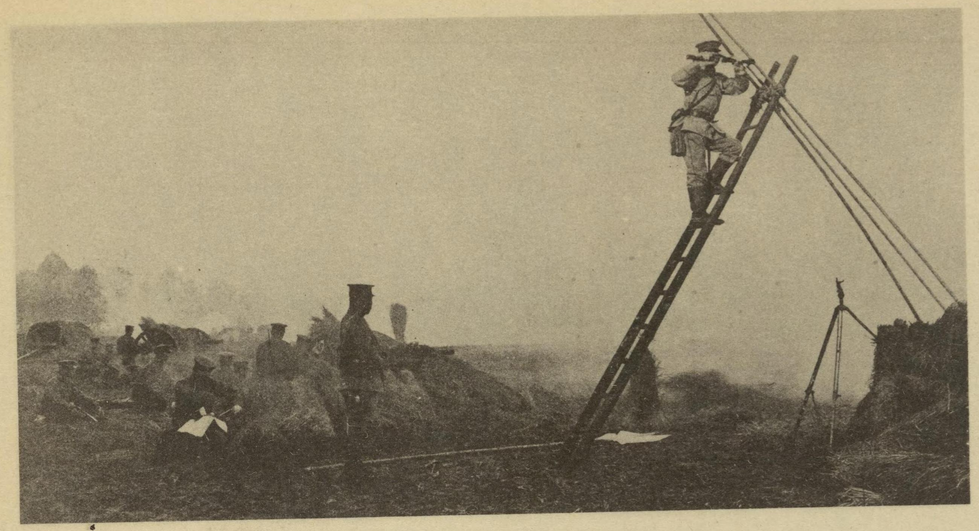
大正三年十一月七日占領せしビスマーク
砲臺の二十四珊砲の慘狀

大正三年十月三十一日我重砲隊の猛撃。青島大港スタンダード石油庫に命中火災を起さしむ

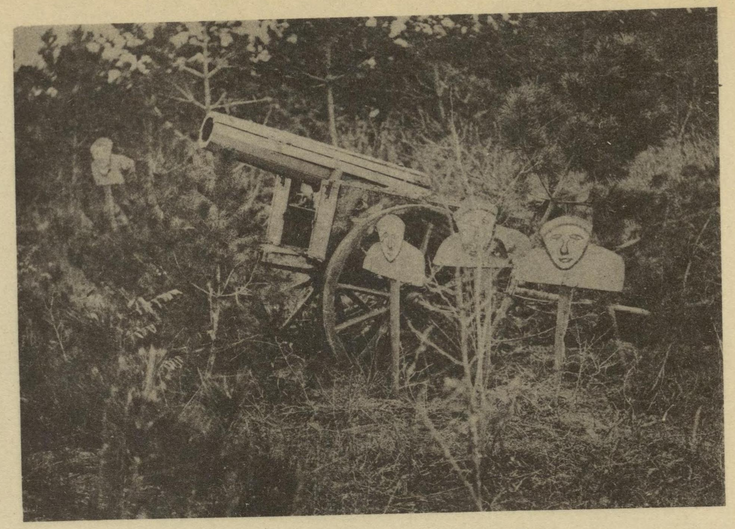
青島東吳家村より臺東鎭道路上の獨軍
堡防砲

帝國政府は日英同盟によりよ獨逸の逸東根據地を覆滅せしむべく、大正三年八月十五日獨逸政府に對し最後の通牒を發するとともに共に二十三日正午の回答期限に至るも逸獨逸よりの回答を得ざるを以つて神尾陸軍中將は獨立第十八師團を率ゐて攻略に從事し第二艦隊加藤（定吉）中將は八月二十七日膠州灣の實力封鎖を爲し九月二日陸上軍、英軍と共に海陸よりの攻撃を開始し遂に十一月七日に至つて青島を陷れたためた。此戰に我飛行隊は始めて實戰に參加し又加藤中將は八月二十六日無線電信を以つて膠州灣封鎖宣言の電送したのは此戰に於ていて華々しき事件であつた。

青島攻略（二）

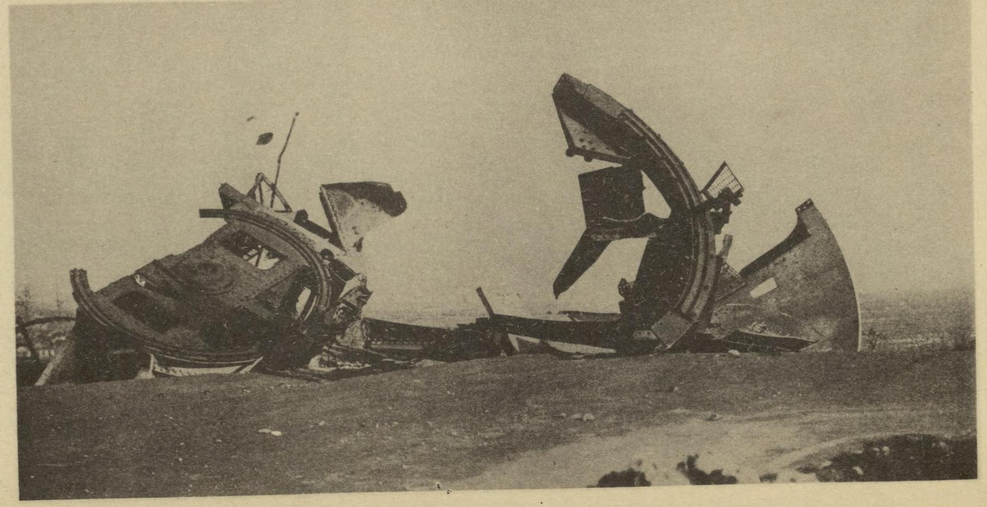


青島攻撃中の我野砲陣地



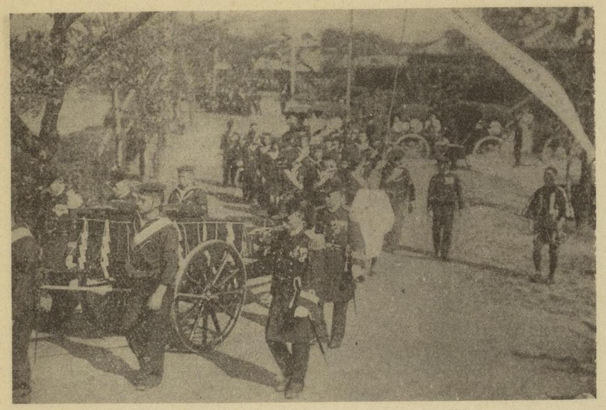
青島獨軍の鴎砲

イルチス砲臺占領の第五十六聯隊
大正三年十一月七日占領當時の我第五十六聯隊　旗の下方が加藤聯隊長

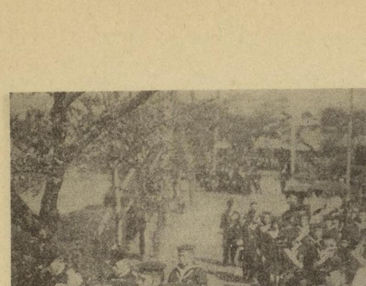


爆破せし臺四鎮砲臺（大正三年十一月五日）

軍艦高千穂の爆沈



上、築地水交社に於ける葬儀
大正二年一月十一日、水交社より青山斎場に向ふ



下、艦長伊東祐保の遺品

爆沈せる軍艦高千穂と艦長海軍大佐伊東祐保

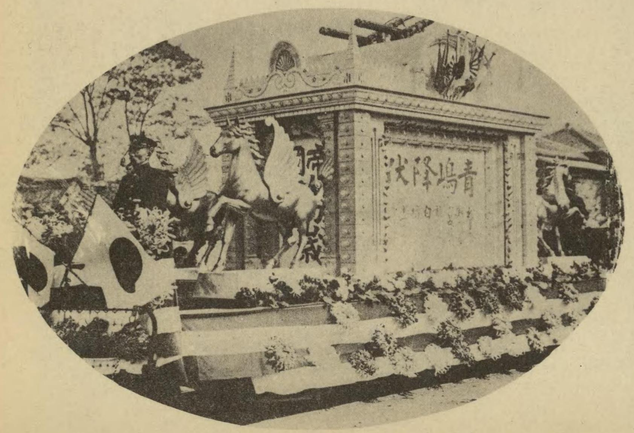
軍艦高千穂は大正三年十月十八日膠洲湾外にて敵の魚形水雷に觸れて爆沈し將卒二百七十一名戰死したり。

我海軍の實力封鎖部隊は激浪と暴風雨と戰ひつゝ任務遂行中、大正三年九月四日の暴風雨中偵察中の驅逐艦白妙は暗礁に觸れて沈没し九月三日には航空母艦若宮丸及び第三長門丸は機雷に觸れて沈没し十月十八日午前一時ドイツ驅逐艇エスス九十九號は哨艦高千穂に雷魚を發射して脫出せんとして我艦隊に追跡せられて黄河々口に坐礁せるも高千穂は遂に沈没し將卒二百七十一名戰死したり。斯くして日清、日露兩役に名を轟かしたる艦も遂に海底の藻屑となつた。

青島陷落祝賀會

上、東京市祝賀會
大正三年十一月十一日午後二時東京日比谷公園に於ける祝賀會に入代海相の萬歳三唱。

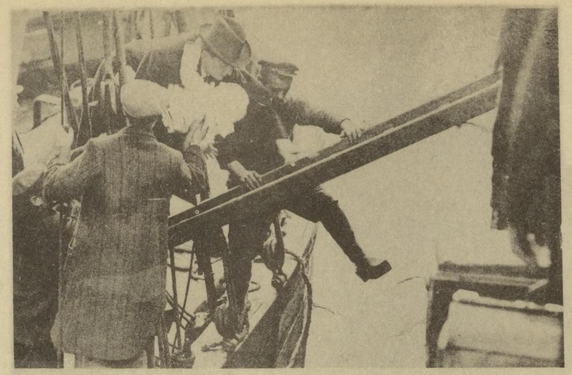
下、公園内群集の萬歳唱和



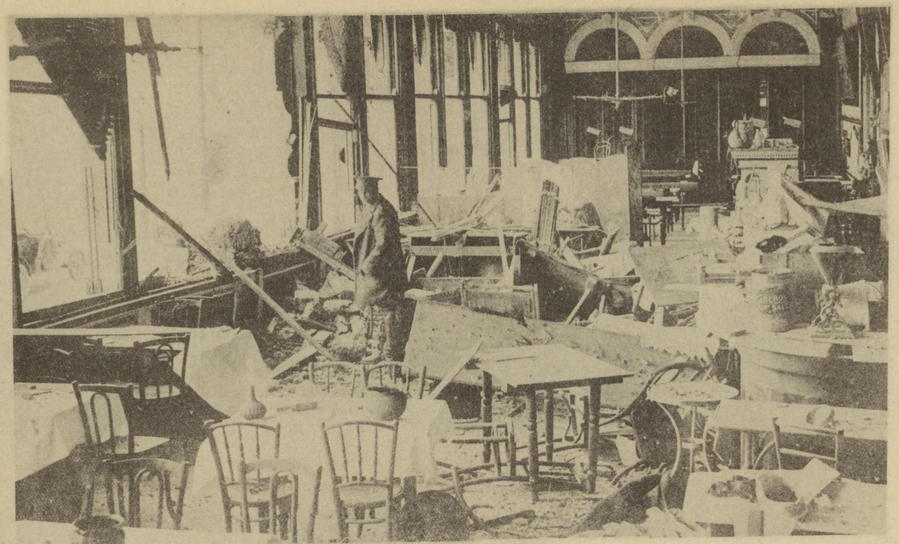
上、青島攻圍軍の天長節祝賀會
大正三年十月三十一日擧行、右方は神尾總司令官、左は山梨參謀長
下、東京市の花電車

青島陷落の報に接するや全國を擧げて祝祭を營し東京にては八日夜市民の大提灯行列あり、五臺の花電車も電飾美々しく市中を運轉し、九日は實業團體六萬人の大提灯行列あり、十日も約二千人の行列あり十一日に日比谷公園にて東京市主催の大祝捷祭を盛大に催し阪谷市長の祝賀文讀上來賓露國大使マレヴイツチ氏の祝詞の後、君ケ代齊唱、萬歳唱和、續いて市長は大元帥陛下の萬歳を、八代海相は聯合國元首の萬歳を、更に市長は帝國軍人萬歳を三唱して閉會したが公園内には各種の裝飾及び餘興ありて非常なる賑ひであつた。

オステンドの陥落

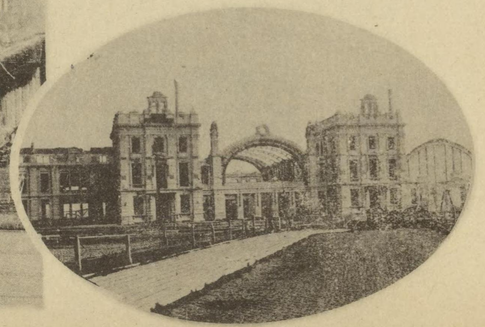


右、オステンドより避難の最後の市民獨軍進入の直前帆船に便乘して英國に逃れんとするオステンド最後の市民である。



上、オステンド海岸ホテルの慘狀

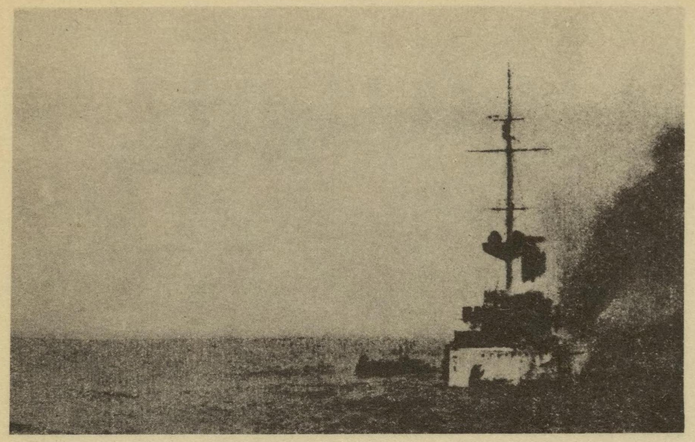
下、戰前のオステンド停車場



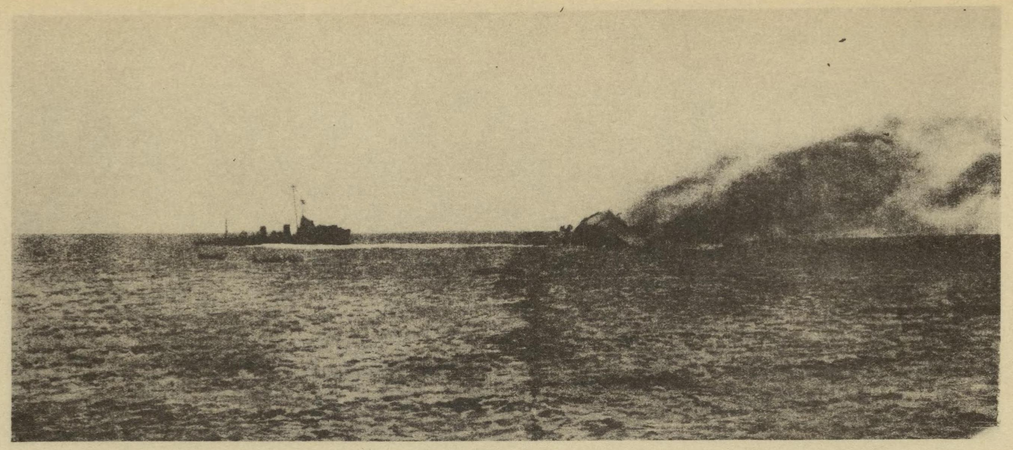
左、オステンド停車場の殘骸

オエージュ要塞陥落するやや獨軍は決河の勢を以つて進撃し大正三年八月二十三日にはナミユール要塞陥落し、九月二十八日獨軍は大砲二百門を以つてアントワープ要塞を攻撃せる爲白耳義軍の奮戰も功なく力盡きて十月一日獨軍に占領され十月六日獨軍の總攻撃と共に白耳義軍はオステンドに退却したが其最後の地も支ふる能はず遂に アルバート陛下は英國に蒙塵され永世中立國たる白耳義は茲に於いて完全に獨軍の馬蹄に蹂躙さるゝに至つたが獨軍侵入後三ヶ月間に二萬一千戸は燒失、無法殺戮されたもの六千人に及び掠奪凌辱等の蠻行の其例實に數ふるに暇なき程である。

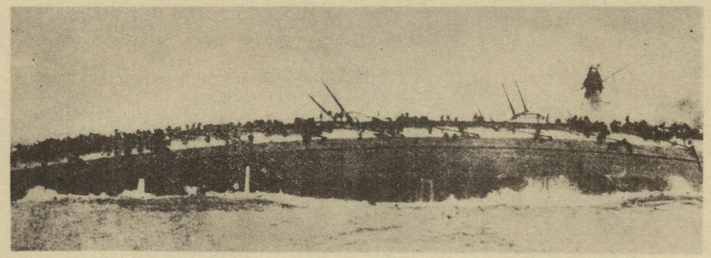
ヘルゴランド及びドツガーバンクの海戰



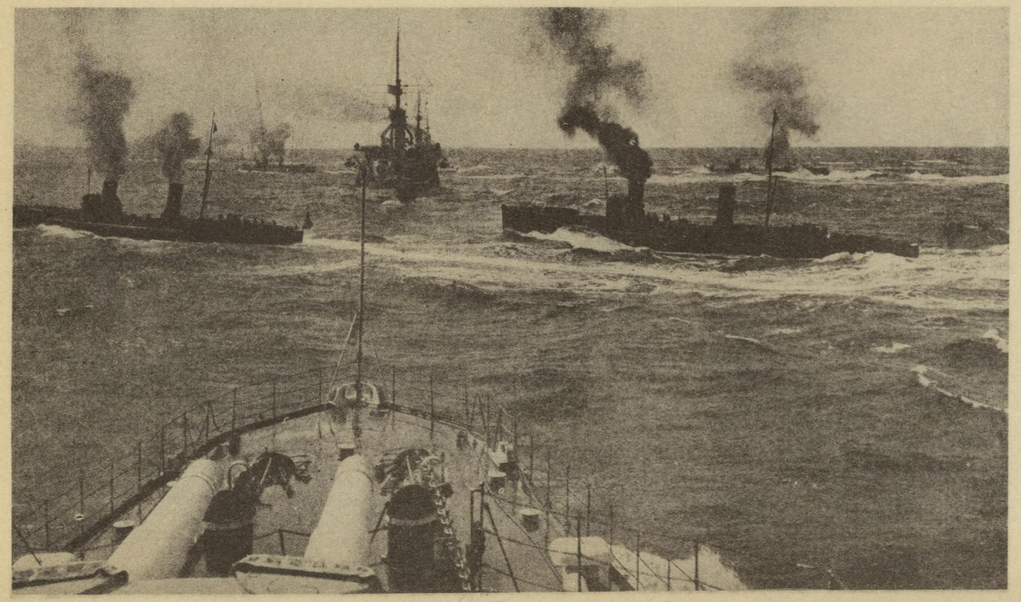
大火災にかゝれるマインツ號
左方は英巡洋艦リバープール號の救助艇でマインツの乘員を救助せんとする有樣である。



沈沒しつゝある獨艦マインツ號
大正三年八月二十八日ヘルゴランド沖にて沈沒



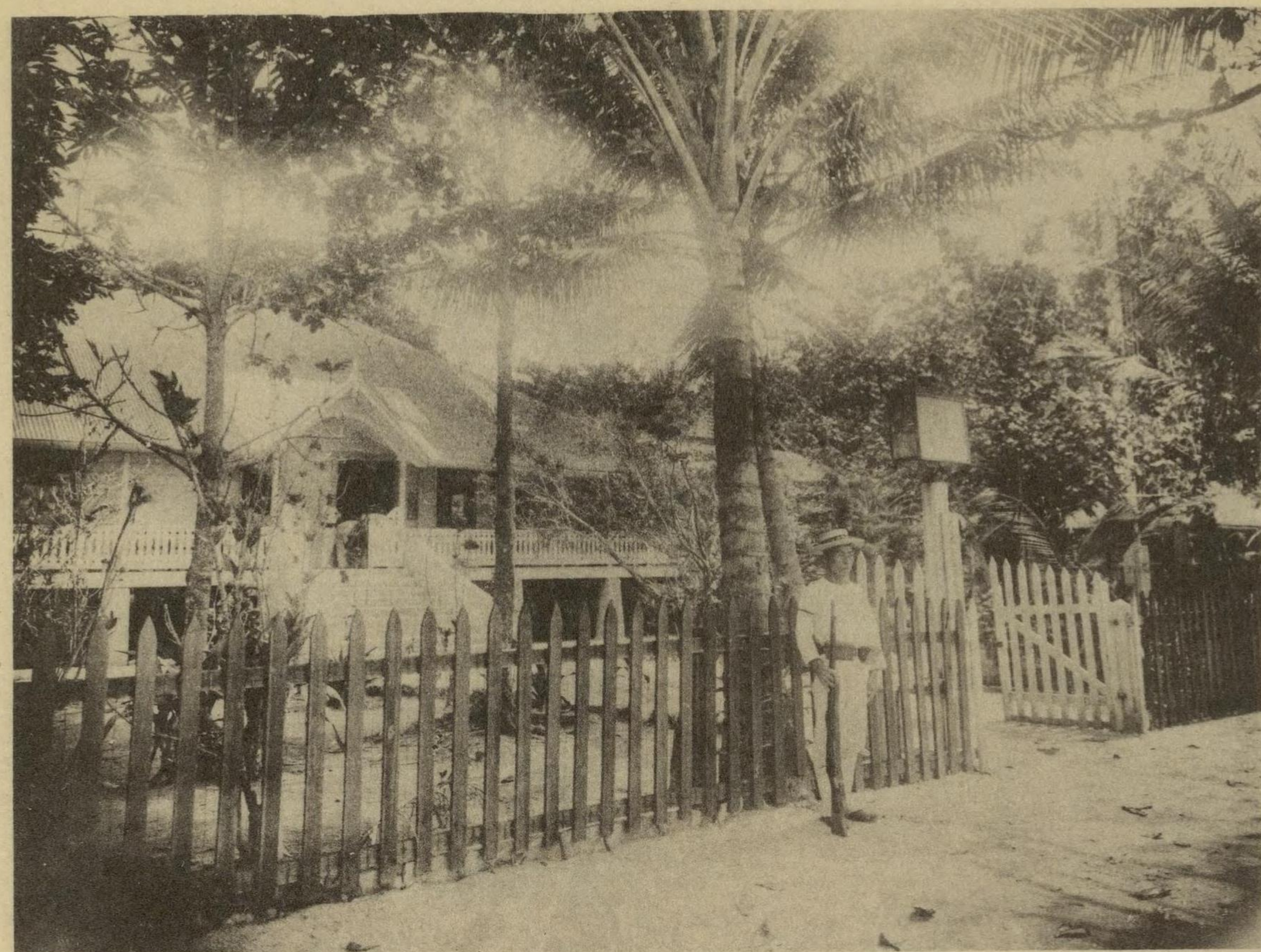
上。プリユツヘル號の覆沒
大正四年一月二十四日ドツガーバンクの海戰に於いて獨艦プリユツヘルは英艦隊の攻擊を受けて沈沒したが本寫眞は轉覆せんとする同艦の艦腹の上に群りて海中に飛び込み逃れんとする同艦乘組員であつて蟻の如く點々たるものが即ちそれであるが乘員千二百名中、九百名は溺死し三百名は捕虜となり獨逸海軍大臣チルピツツ提督の令息も亦捕虜となつた。



左、ヘルゴランド沖に出動の獨逸水雷戰隊。

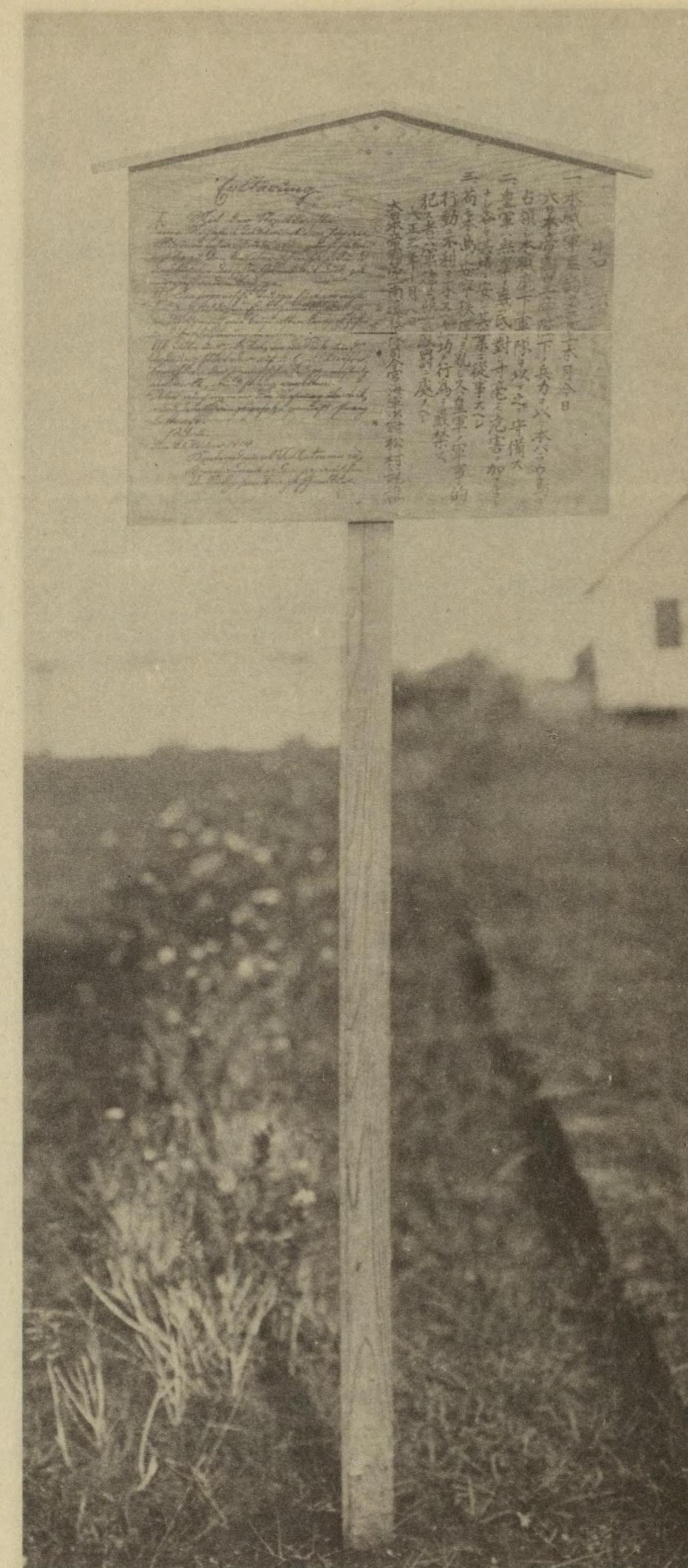
大正三年八月二十八日獨逸艦隊はヘルゴランド要塞援護の下に出動したので英艦隊は直ちに出動是を襲擊し濃霧に乘じて獨艦隊に迫り猛烈なる攻擊を加へ激戰八時間遂に獨巡洋艦マインツ號は沈沒し其他沈沒損傷は十一隻に上り英軍の損害は僅かに二隻であつた。越へて大正四年一月二十四日午前七時獨艦隊は英國東海岸を砲擊せんとして出動せる所を英艦隊に發見されドツガーバンクに於いて會戰し午前九時に至つて獨の殺艦プリユツヘルは多數の命中彈を蒙りて大火災を起し遂に沈沒したが是れより以後獨艦又出でず。此兩戰共獨軍の大敗に終つた。

獨領南洋諸島の占領



ヤルート島守備隊本部(海軍省藏)

我軍の最初に占領せしヤルート島土人のカヌー船。軍艦は左
より南遣艦隊旗艦鞍馬及び驅逐艦海風。



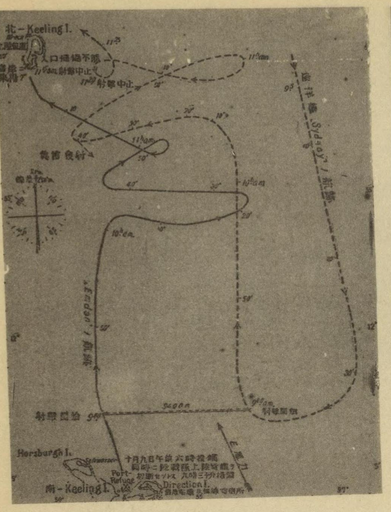
大正三年十月一日コロール島守備隊本部前に建て
られたる布告立札。(海軍省藏)

陸戰隊の上陸。加藤(友三郎)中將麾下の南遣艦隊の一部
ヤルートに陸戰隊を上陸せしめ同島を占領す

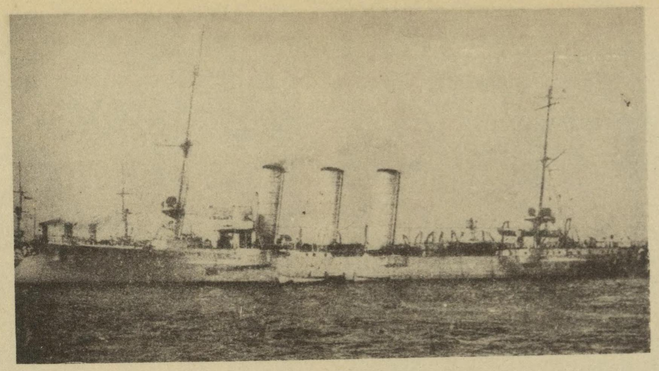
マリアナ群島のサイパン島カナカ土人家族

大正三年十月一日加藤(友三郎)中將麾下の南遣艦隊の一部はヤルート島を占領島内に拘留され居たる同胞塚村兼吉を救出し又抑留中の英船エンジコー十號を解放し同月十四日迄にマ
リアナ、マーシヤル、東西カロリン群島中の重要諸島を占領し更にウオトヘ、ミルニユーエヤ、カサリン、マシユロー、スクアイ及び赤道以南のナウルセ島を占領且つマリアナ列島
中米國領を除く同群島全部を占領せる爲、獨艦エムデンは根據地を失ひて印度洋方面に逃れ、我艦は之を追躡した。

エムデンの最期

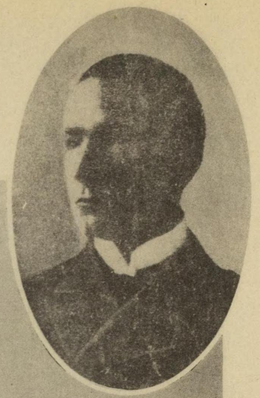


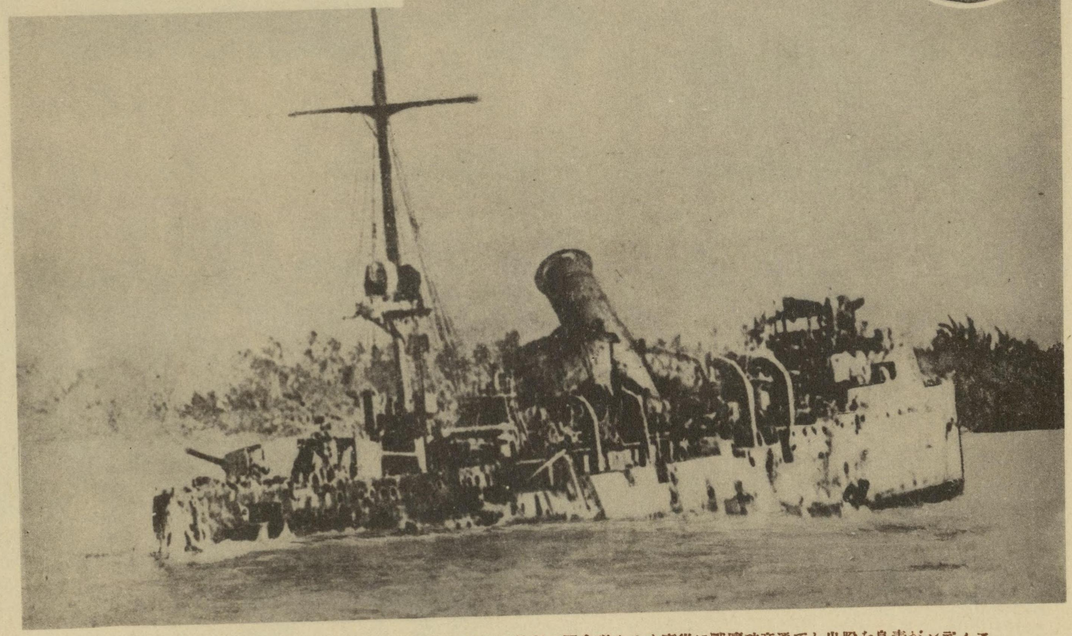
ドニー號及びエムデンの交戰圖



獨巡洋艦エムデン號

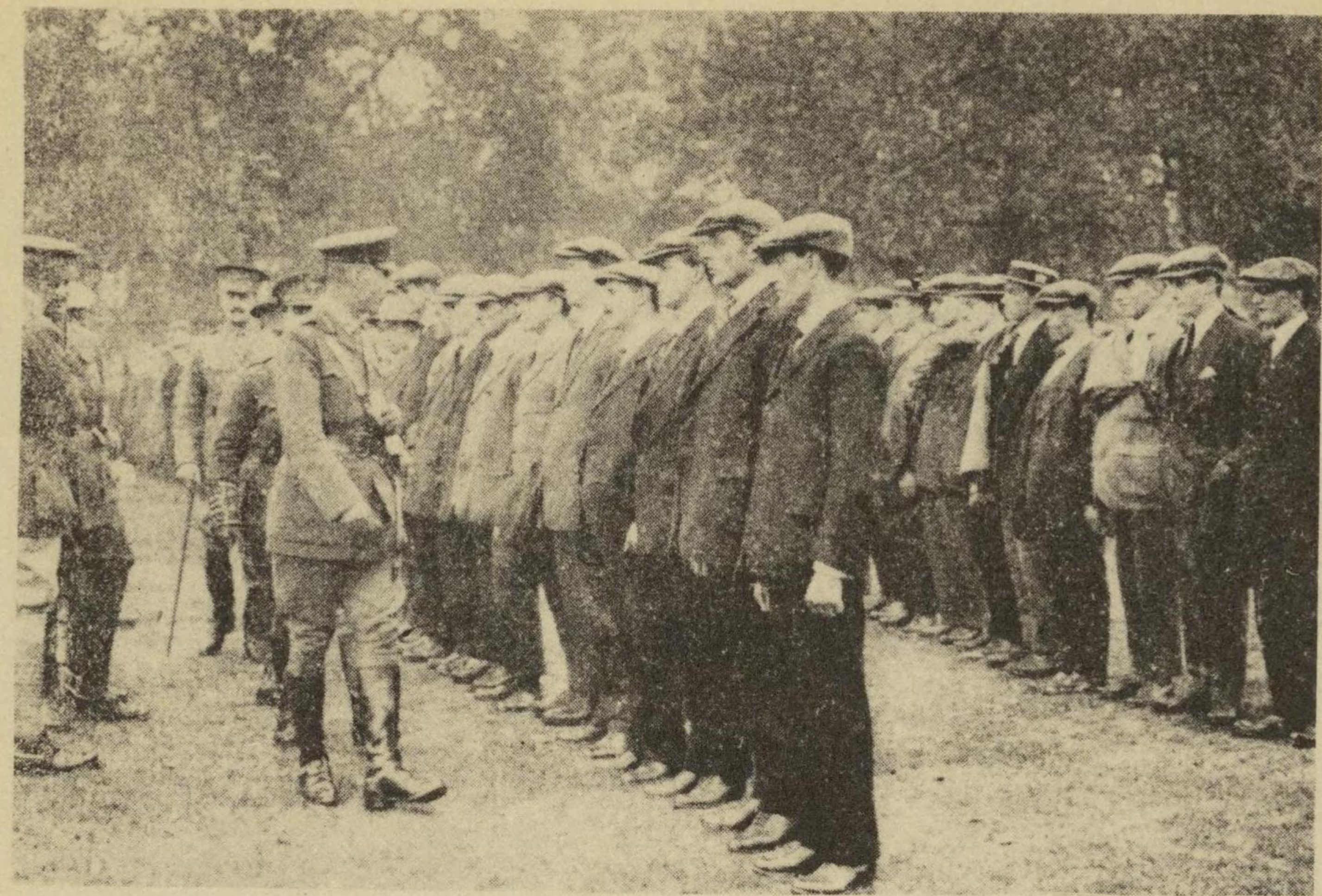
エムデンの最期と艦長フオン・ミユーラー





軍側合聯の隻三十七に實爲の索捜艦同に爲し絶途く全は易貿の國合聯やるす事從に戰壞破商通てし出脫を島青がンデムエ
艦が追跡しが巧みにみ逃れた居て。大正三年一月九日一十年三頃占を港アンリーキ島群スヽコ日九月一十年三頃占せ領を港アンリーキ島群スヽコ日九月一十年三頃占せ領を港アンリーキ島群スヽコ日九月一十年三頃占せ領

英國義勇兵の出發



ハイドパークに集まれる英國義勇兵

スコツトランド兵のウオータールー驛出發

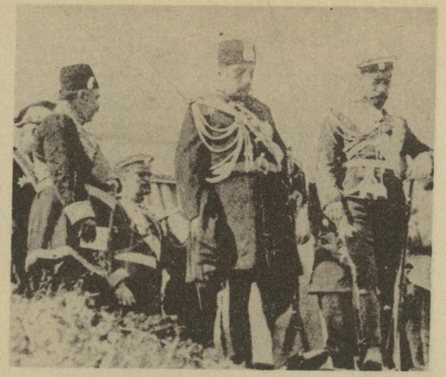
上、義勇兵募集ポスター
英國々會募兵委員會發行のもので『進め！ 勝利に向つて進め！ 即刻に應募せよ』と記してある。

左、義勇兵の出征
英國獨身者應召兵は大正四年十一月初めて白、佛及びバルカン方面に出兵せんとして倫敦市中行進の有樣である。

英國は白耳義救援の爲にオステンドに兵を送つたが間に合はずして白耳義王室は英國に逃れたが獨軍の猛威益々隆なる爲英國は遂に一百萬の新兵を大陸に送る計畫を立てゝ募集したが英國は志願兵制度の爲應募するもの少なく多數のポスターを電車、地下鐵道等に貼り十九歳より三十五歳迄の男子に出征を勸告し後には女子の愛國心に訴へて夫と息子とを戰場に送つたのであるが其文句も『英國の婦人よ、汝の義務を盡せ、今日汝の男子を吾等の光榮ある軍隊に加入せしめよ、神よ、我等の主を救へ』と云ふのである。而して大正四年四月迄に漸く四十萬を歐洲に送り從前の兵と合はせて英軍は七十三萬になつたのである。

東部戰線

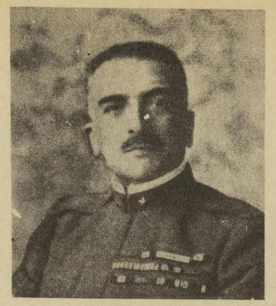
上左、境國を堡に輸送しつゝある露軍
（大正三年八月）
下左、セルビヤに進入せるブルガリヤ軍
（大正四年十二月）



下右、ベルグラード東方ダニューブ河附近に於ける露軍砲兵。
上右、東部戰線に奮戰中の露帝。

露國はセルビヤと同人種（スラブ）なるを以てセルビヤを助けて對獨墺宣戰をしが開軍が互に兵火を交へたのは大正三年八月一日であつた。同三日には露軍は獨領に進入した。一方十月九日土耳古艦隊は黑海々岸のノウロシースク市を砲撃せる爲露土の交戰となつた。セルビヤは大正三年八月中旬首都ベルグラードを占領されたが十一月十四日奪還し、又大正四年三月獨墺マツケンセン軍の爲に露軍が粉碎されたるとと共に再び占領された。大正四年十月四日露國はブルガリヤと開戰し十四日ブルガリヤ軍はセルビヤに進入した。

大戰中の各國軍司令官



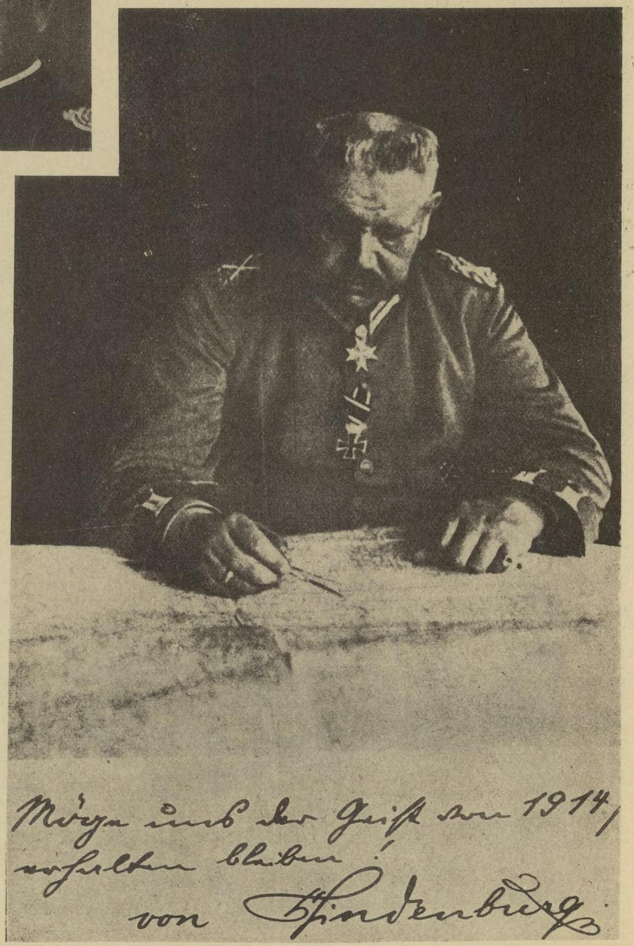
右、米軍司令官パーシング將軍
左、伊軍司令官デイアズ將軍

左、英軍總司令官ヘーグ將軍

下、露軍左翼軍司令官ジリンスキー將軍

上、露軍右翼軍司令官レンネンカンプ將軍

佛國フオツシユ元帥(右)とジヨツフル元帥(左)



獨逸ヒンデンブルク元帥と其署名

ヒンデンブルグ元帥は大戰當時參謀總長フオルケンハインがヴエルダン戰に失敗するや其後を受けて參謀總長になりマツケンセン將軍と共に獨逸國民の偶像となり今日獨逸の大統領となつて居る。フオツシユ元帥は偉大なる戰略家で又非常な謙遜家と云はれ天才的な戰略家である。ジヨツフル元帥も亦マルヌ戰に大勝して佛國を救つた人、我國にも戰後來朝したヘーグ元帥は南阿戰爭の勇將で大戰では嘗て用ひなかつた騎兵を巧妙に運用した。露軍のレンネンカンプ將軍は日露戰役には大に活躍した人で大戰には右翼軍を指揮して花々しく戰つた。

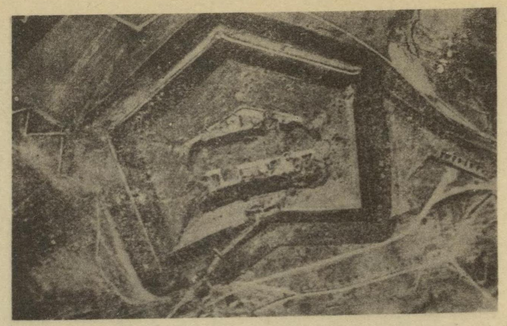
アルゴンヌ森林中の佛軍（大正四年五月）

上、佛國の野戰風呂
六　アルゴンヌ森林中の佛軍の塵紫急造（大正四年五月）

東方に於いて露軍がブルツエミズルの要塞を攻略して意氣大に膨れる時に當り西部戰線にては數ヶ月に渉りて花々しき戰なく大正四年四月に至つてサン・ミヒエールの激戰ありより即ち五日より四日間ヴエルダン北東及び東部に於いて兩軍交戰サンミヒエール一帶の地は眞に屍山血河の現出を『國の死』を現出したり。而して六月二十八日より七月十八日に至るアルゴンヌを中心として大激戰を演じ七月十三日には獨皇太子は自ら盛勢なる軍勢を率ゐて突擊をしたが失敗に終り尺寸の地を爭つて遂に兩軍共に何等得る所なかつたが七月一日の獨軍重砲及び毒瓦斯彈の猛擊には佛軍は憾まされたれ。

ヴエルダンの大激戦

ヴエルダン要塞北方叢林中の佛軍砲彈
（大正五年二月二十一日より五月二十七日に至る要塞戦の準備砲彈の一部）



ドーモン要塞の慘狀

上圖は大正四年二月九日のドーモン要塞の有樣であるが獨軍の數ケ月に渉る猛砲撃により大正六年に至つては實に下圖に見ゆるが如く眞に粉碎されてしまつたのである。點々たる圓形の穴は是總て砲彈落下の跡であつて如何に獨逸軍の攻撃が猛烈であり『彈丸雨注』が僞でなかつた事が判る。

大正五年（一九一六年）二月二十一日午前七時獨軍は三十二萬の兵と四十二珊砲十二門を始め海軍砲、重砲、野砲等數百門を以つて愈よヴエルダン要塞攻撃を開始し、爾來五月二十五日に至る迄幾度となく怒濤の如く押寄せたが其都度撃退されて僅かにドーモン要塞を一度占領したに過ぎなかつたがヴオー及びドーモン要塞間の谷間では殊に大激戦が演ぜられヴエルダンの前面は眞に『死人丘』を現出した。ヴエルダンの守將ペタン將軍よく守り又佛軍が急造したる自動車道路は偉功を奏して自用軍動自用軍隊は間斷なく兵員、輜重食糧彈藥をヴエルダン各要塞に配給して防戰し獨軍の鋭鋒を挫いたのである。佛軍がヴエルダン防禦戰にのみ使用せる砲彈は實に六百萬發に達したのである。

ソンム戰線

ソンム戰線英軍陣地の砲彈檢査
(大正五年十月上旬)

砲彈上に假睡する兵士

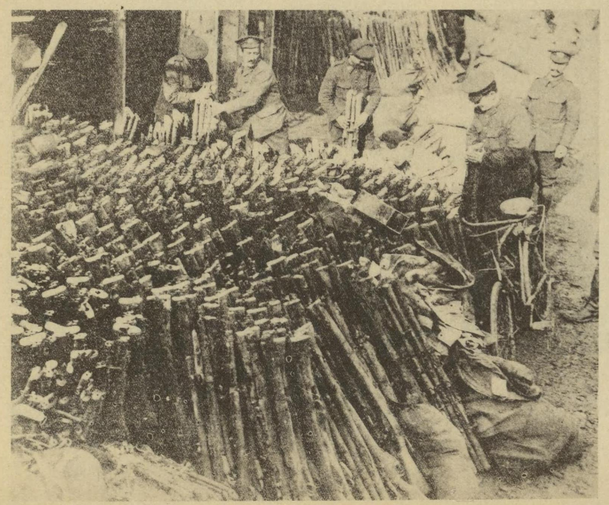
ソンム附近占領地道路修繕中の英軍
(大正五年八月)

獨軍がヴエルダンの攻略に多大なる損害を受けつゝあるに於いて英佛聯合軍は大正五年(一九一六年)七月一日を以つて大攻撃を開始して獨軍浮虜一萬を得、十四日第二期攻撃に移り英軍はバザンタン・ロンヴアールを占領し八月五日聯合軍は獨軍の第二線を占領し漸く聯合軍の戰機は一轉して攻勢の地位に就く事が出來たがヴエルダンの要塞も亦時を同ふして獨軍を攻撃し獨軍は其兩翼に攻撃を受けて大に苦しんだ、然るにソンム方面は雨期に入り殊に十月以來は連日の降雨に兩軍共に惱まされたが、ソンム方面の降雨の霽るゝを待ちて英軍は十二月十三日アンクル方面を攻撃して大勝を得た、ソンム戰では三十五萬の捕虜を得た。

西部戰線に於ける英軍

塹壕中の英軍歩兵
大正五年九月アラス附近の戰鬪に參加

敵砲を點檢する英軍
大正五年九月上旬ソンム附近にて鹵獲

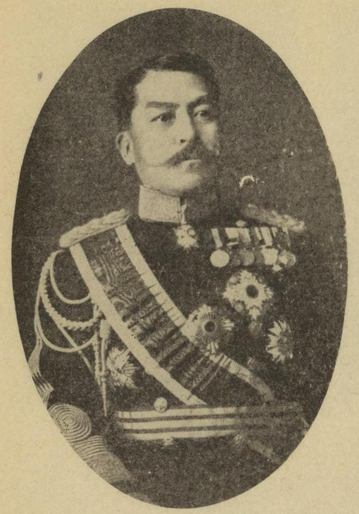


ソンム戰に於ける鹵獲品の一部(小銃)
(大五五十一月)

癈機に應射する英軍ルイス高射機關銃
(大正五年十一月北佛ダンカーク附近)

英軍塹壕内のシチユー分配

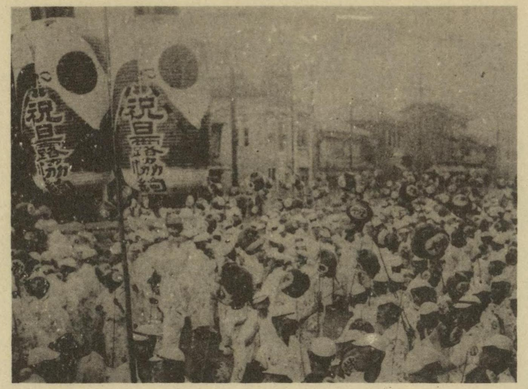
日露新協約の成立



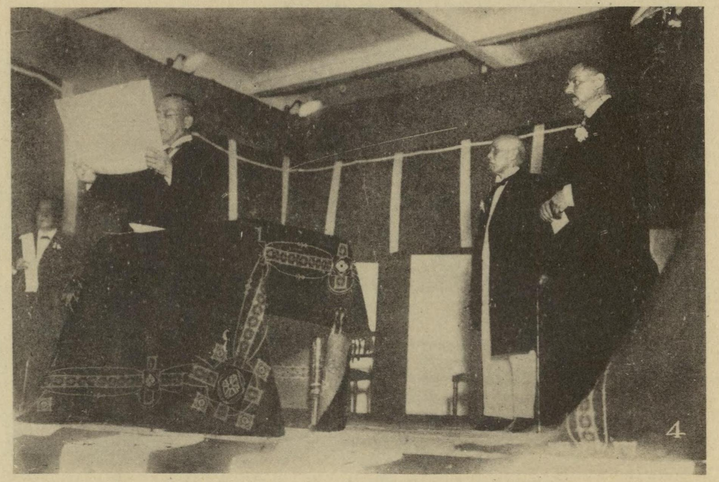
遣露大使
閑院宮載仁親王殿下

外相官邸に於ける日露協約祝賀會記念撮影（上右）
大正五年七月三日日露協約成立祝賀の爲午餐會を同七月八日外相邸に開いた時の記念撮影。
前列向つて右より。芳川伯、箕浦遞相。河野農相。一木內相。石井外相。大隈首相。露大使クルペンスキー氏。尾崎法相。加藤海相。高田文相。島村軍令部長。
中列。大隈外務參與官。鈴木海軍次官。高橋法制局長。江木書記官長、露商務官ミューレル氏。參事官セキン氏。一等書記官アプリコソフ氏。西久保警視總監、山屋軍令部次長。
後列。永井電信課長。柴外務參政官。小池政務局長。幣原外務次官。吉田秘書官。

横濱の祝賀會。露美人と齋藤市長



大阪の祝賀會
七月十七日の一萬六千人の大提燈行列

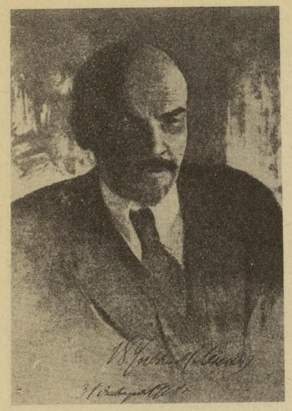


東京に於ける祝賀會。大正五年七月二十日上野に於ける祝賀會
德川公の祝文朗讀。右露大使、大隈伯、左端、澁澤男

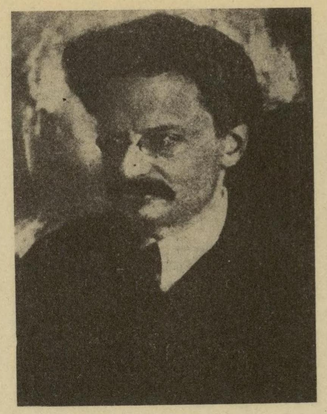
（462）

世界の大戰は明治卅七八年戰役の日露間の讐怨を忘れて兩國の親善を導き極東の平和と兩國永遠の交誼を保したしめんが爲に大正五年七月三日兩國間に新協約が締結され其祝賀會が東京では七月二十日に行はれ其夜は三萬七千人の大提燈行列があつた。超えて九月十一日には陸軍大將閑院宮殿下は聖旨を奉じて遣露大使としてし同日午前八時半東京驛發御出發都露に向はせられた。

露國の革命・ロマノフ王朝の滅亡



過激派首領
レニン



過激派首領
トロツキー

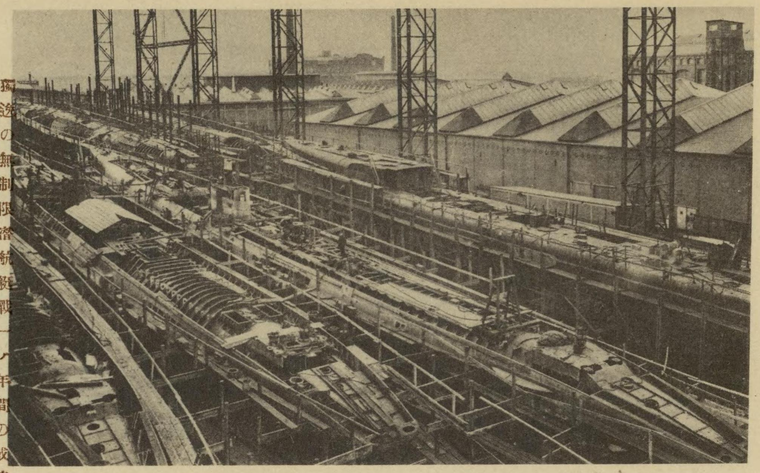
ペトログラードの革命戰

上、退位せる露國皇帝及び皇后
左、ペトログラードに於ける革命市街戰（大正六年三月十一日—十四日）

左、ウラジホに於ける革命政府成立祝賀會
大正六年三月二十五日ウスペンスキー寺院に於ける革命完成大祝賀會の大行列で三萬人の參加者があつた。

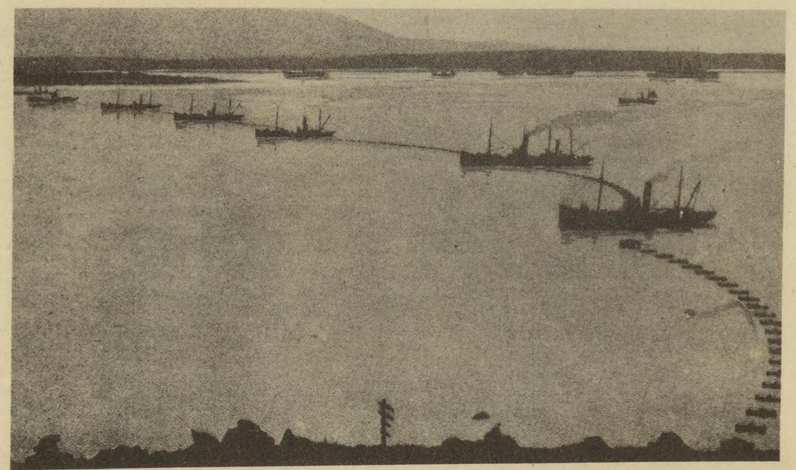
露國の排獨派の急先鋒たる議會及び陸軍部は大戰以來の作戰の失敗は是れ宮廷及び政府の間に親獨主義あるが爲なりとし殊に開戰以來の食糧缺乏は窮民の饑餓を招き宮廷、政府は國民の怨府となつたが大正六年（一九一七年）三月十一日突如革命起りモスコー及びペトログラードにては三日間市街戰が演ぜられ政府は覆滅してリヴオー公爵は首相となり、露帝ニコラス二世は列車中にて退位を強要せられて遂に其宣言書に署名せられ茲にロマノフ三百年の王朝は斷絶した。而も革命の波動は首相リヴオー公を追ひケレンスキー宰相となり更に過激派の勃興となつてトロツキー及レニンの手に移たのである。

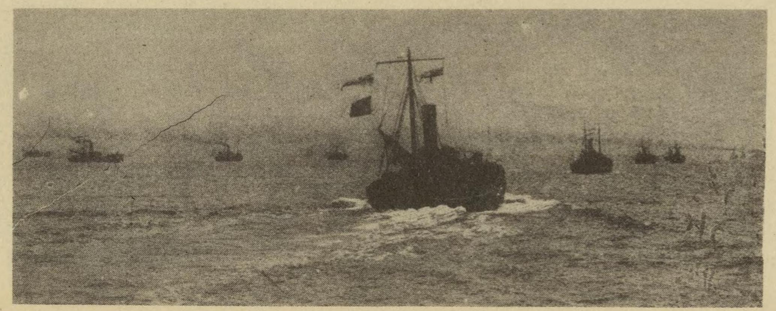
獨逸潛航艇の活躍



上、大戰中に於ける獨逸潛航艇の建造
ドイツ潛航艦局は大正八年迄に七百七十隻建造の豫定であつ
て休戰當時は百二十三隻も完全なものがあつたの。
下、英國大艦隊根據地オークネー島の潛航艇防禦の防材

獨逸の無制限潛航艇戰一ケ年間の成績
英國及び地中海方面に於ける有樣で黑點は擊沈されたる船舶を示すもの
である。



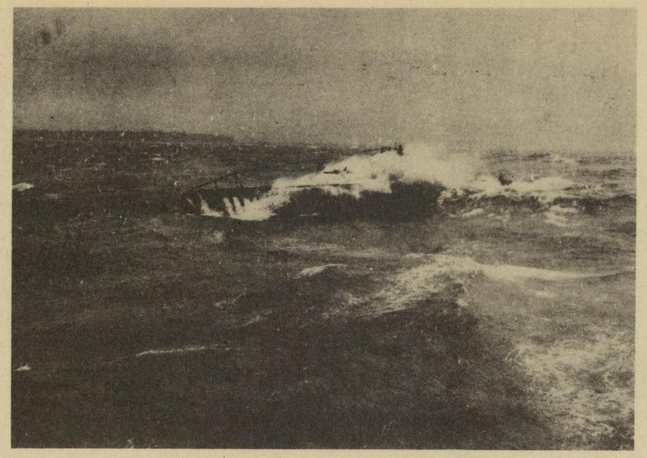


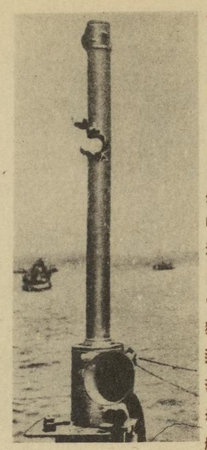
右、英國哨戒艇の警戒

開戰の劈頭即ち大正三年九月二十一日獨潛航艇U九號艇は僅々一時間未滿の間に英艦アブキール、クレシー、ホークの三隻を擊沈したるを始めとして大に潛航艇を活躍せしめたるも英國は海上貿易途絶して全國の食糧は僅かに二週間分を餘すのみとなりて英國は戰はずして屈服せざるべからざるの危機に陷つたが、百方苦心して英佛海峽に網を張り北海に約數萬個の水雷を沈設し驅逐艦、トロール船等を總動員して獨潛航艇に對抗せしめ後米國驅逐艦隊の來援及び日本軍海の助援によりて漸く愁眉を開くやうになつたのである。

大戰中の潛航艇戰

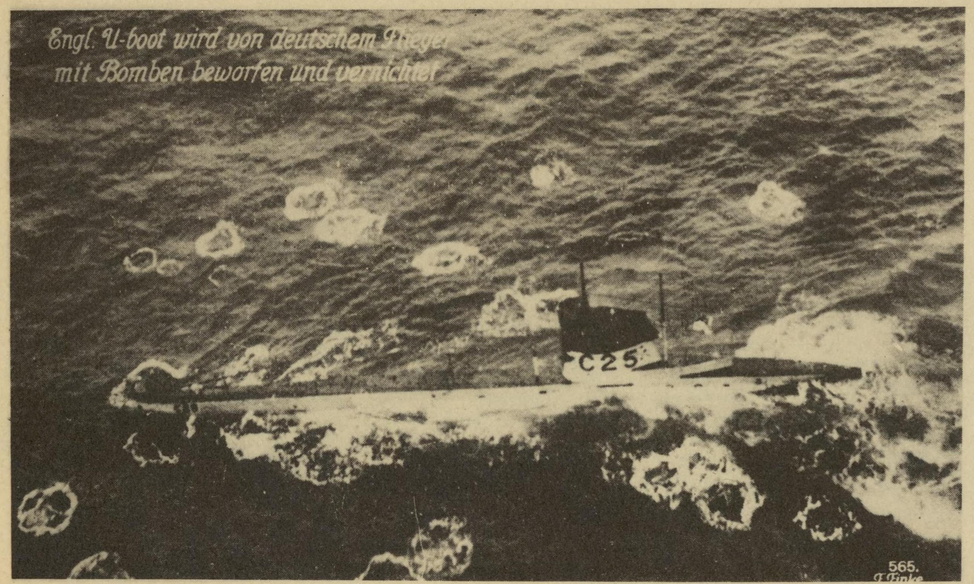
右、獨逸潛航艇の砲戰





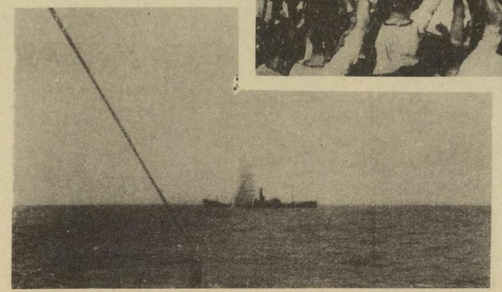
右、ダーダネルス戰に偉功を奏せる英國潛航艇イー十一號艇のペリスコープ（潛望鏡）の彈痕。

左、ヘルゴランド沖哨戒中の獨逸潛航艇



左、爆擊されつゝある英國潛航艇

英國潛航艇シー二十五號艇が獨逸飛行機より爆擊せられて今や沈沒せんとする有樣であるが、同艇は幸に沈沒を免れて味方の驅逐艦に救助された。



上、イー第十一號艇の凱旋

ダーダネルス海峽の防禦を突破して海峽内に進入しトルコ戰艦メッスヂエー號を擊沈したものである。

左、獨逸潛航艇の英船擊沈

獨潛航艇に對しては聯合側は大に苦しんだが遂にキューシップ（囮船）等を案出して潛航艇を擊沈せしめ又は快速力の驅潛艇（サブマリン、チェーザー）を急造して對抗した。大正五年（一九一六年）獨潛航艇ドイツエランド號は、六月十四日ブレーメンを出發し二十三日ヘルゴランド出港、航程四千浬（其中潛航は千八百浬）を航海して七月九日米國バルチモアに到着し七百五十トンの藥品、染料等を米國に賣却し且つゴム、白金等の軍需品を買入れて聯合側の嚴戒を突破して八月一日バルチモア發、同二十二日無事ドイツ、ウエーセル河口に到着したが賞讃すべき行動なると共に『巡洋潛水艦』が商業に從事したは實に是が嚆矢である。

ジユツトランドの大海戰

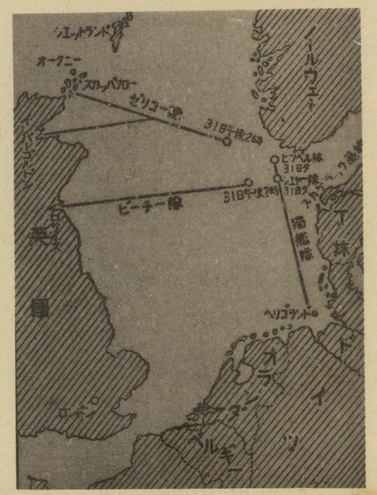
獨司令長官
シエーアー中將

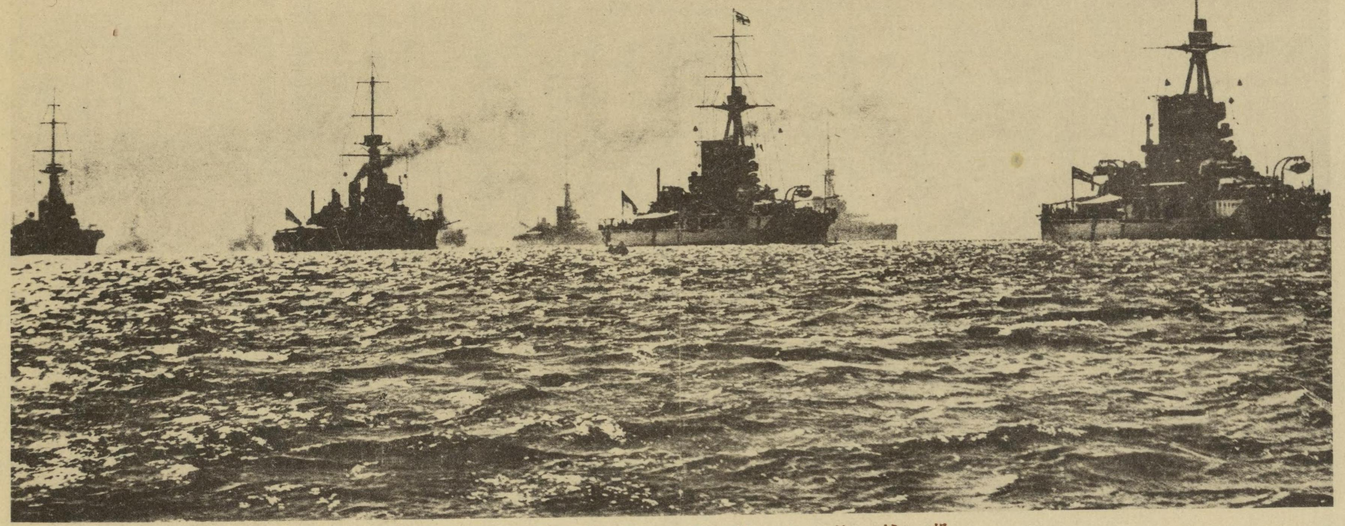
英司令長官
ビーチー中將

英司令長官
セリコー大將

上、英艦クインメ、リーの爆沈
大正五年(一九一六年)五月三十一日午後四時二十六分爆沈す左方に見ゆるは旗艦ライオン號。

下、英獨兩艦隊行動圖





根據地に於ける英國大艦隊
右より。アイアン・ヂユーク。マーボロー。エンペラー・オブ・インデア。ベンボー。及び其他で所謂グランド・フリート(大艦隊)の全容である。

ヘルゴランド沖海戰後獨逸艦隊は軍港内にかくれて出でずす英軍をして脾肉の嘆を發せしめたが一九一六年(大正五年)五月三十一日遂にジユツトランド沖に會戰し午後三時四十五分より午後五時三十三分に至る迄兩軍の主力は戰術の妙を盡して戰ひ眞に未曾有の大海戰であつた。而も午後四時二十六分英艦クインメリー號は獨艦隊の一齊射擊を受けて砲塔は吹き飛ばされ火は火藥庫に入り爲に瞬間に爆沈してしまつた。此海戰は海上の濛氣の爲に英軍は長蛇を逸したが勝敗は決せずして今日に至つても尙疑問とされて居る。此海戰は英國ではジユツトランド或はユトランドの海戰と云ひ獨逸ではスカゲラツクの海戰と云ふ。

世界大戰史

總說

世界に歷史ありて以來、比類なき驚天動地、未曾有の絶大戰爭を捲起したるは實に西曆一千九百十四年、卽ち我が大正三年六月二十八日巴爾幹（バルカン）の一角ボスニヤの首府サラエボに於ける墺洪國皇儲フェルヂナンド太公夫妻の暗殺に、直接その原因を發したのであつた。而して延いて歐羅巴大部分の各國は是れに參加するに至り、終に歐洲大陸をして砲煙彈雨、阿鼻叫喚の一大修羅場と化せしめ、巨萬の生靈と絶大の戰費とを犧牲とし、千九百十八年十一月に至り、漸く休戰條約が締結され、次で翌千九百十九年六月に至つて、全く媾和條約の調印終了を見たのである。元來此の大戰の起因は、敍上サラボエに於ける墺洪國皇儲暗殺に基けるも、幷は直接の近因にして、事の玆に及べるに就ては、遠因の存し、久しき以前より歐洲各國間に於ける外交界の暗躍が絶えず演ぜられ、其の結果、醞釀して勃發せるに外ならなかつた。而して我日本としては大戰參加國たる英國と攻守同盟國たる以上、當然東亞全局の平和を確保する上に於て、結局獨逸に對して宣戰を布告し、次で青島戰の演ぜられたる事は、何人も知る所である。以下大戰の近因及び外交折衝の經緯より、次に大戰の經過に說き、紙上の許す限りに於て可及的詳述することゝする。

墺洪國皇儲暗殺せらる

事は一千九百八年に遡る。墺洪國は單に一片の宣言書に依てボスニヤ、ヘルツエゴビナの二州を自國に併合したので、此の二州と同人種で最も親密の關係にある塞爾維（セルビア）は、以上の二州を豫てより包容して大塞爾維主義を實現せんとする計畫に大頓挫を來たし、二州の國民も亦深く墺洪國に對して怨を含むに至つた。然るに五年後の一千九百十四年墺洪國皇儲フランツ・フェルヂナンド太公は、ボスニアヘルツエゴビナ二州に於て擧行せらるゝ陸軍演習統裁の爲め、同年六月二十五日ボスニアに着し、同妃ソフイヤも太公と同行し、太公及同妃は此機會に於てサラエボ市の觀光を爲さんとの豫定であつた。同月二十八日太公は妃と共に自動車にてボスニアの首都サラエボ市に行啓され、午前十時同市廳の歡迎式に臨まんとする途中、一人の壯漢突然群衆の中より顯はれ、太公の自動車近く進み、隱し持ちたる爆彈を車上に投げ付けたる刹那、太公は素早く身を換はして爆彈を避け、幸に無事なるを得たるも、太公の次の自動車上の隨行員三人は輕傷を負ふた。太公はさほど氣にも掛けず、直に歡迎式場に赴かれ兇漢は現場に於て捕へられた。歡迎會終りて太公は歸途十字街に差掛るや、又もや群衆の中より一青年躍り出で太公の自動車を目懸けて、轟然一發短銃を發射した、妃は驚いて身を起さんとする刹那彈丸は腹部に命中して仆れ、續いて發せる第二彈は太公の頭部に命中し、第三彈は其腰に中り、太公、妃ともに車中に倒れて人事不省に陷つた。此の不測の椿事に同市の政廳は大に驚き早速手當を加へたるも、甚だ其効なく其日の夕刻遂に絶命せられた。此の兇漢も其場に於て捕縛された而して此の加害者に對する糺問進行するに從つて、太公暗殺計畫の裏面には塞爾維の將校が主謀者として干與せる事が明白となつたのである。

捕縛されたる兇漢は其後兇行の理由を自白して曰く「墺國の現皇帝は齢既に八十四歳で餘命幾何もあらず、若し太子フェルヂナンド帝位に卽くに於ては、彼は必ずや其進取的政略を更新し我が塞爾維をも併合するであらう、故に予は一身を棄てゝ國家の爲め彼を亡ぼしたのである」と。而して審問の結果、塞爾維國參謀次長クリピチュウキツチは大セルビア主義の巨魁にして、今回兇行の主謀者たる事が逐次明瞭となり、幷びに此の陰謀に與れる者は、塞爾維國將校、商人、法律家、議員等であつて、之が費用は商人等之を支出し政府は補助金を與へたること、又現に爆彈を兇漢に交付したる者は塞爾維國現役少佐プリンウキツチなる事判明し、現に七月八日塞爾維政府は右少佐に某外國に赴かしむる爲め長期休暇を與へたる事等、立證せられたのであつた。」

墺塞兩國の反目原因

墺洪國と塞爾維との反目は、這次の皇儲暗殺によつて具體的に暴露された。而して其の反目の根本原因に就ては極めて重大なるものがある。元來セルビアはボスニア、ヘルツエゴヴキナの二州及びモンテネグロ幷びにアルバニア北部を包含し、アドリア海に臨む大塞爾維帝國建設主義を國是とし、之が實行の背後には、スラブ族たる露西亞の後援あるを恃みとした。然るに一千九百八年墺洪國はボ、ヘ二州を併合したるに由りて塞爾維の國是を頓挫せしめたるが故、塞爾維の憤怒は正に絶頂に達したると共に、露國も亦墺洪國がボヘ

二州併合の交換條件としてダアダネルス海峽問題解決の約ありしを出し拔いた恨みから、是非とも干戈に訴へて爭はんとしたるも塡洪國には獨逸といふ後援がある爲め其儘に泣寢入りとなつた。由來塡洪國はサロニカ灣に羽翼を伸ばして多島海に勢威を張らんとの企圖を有して居るので、政治上、經濟上から大塞爾維主義實現を喜ばず、飽くまでも塞爾維を壓迫する事に努力しつゝあつた。是れ其の反目の大原因である。而してスラブ族の統一は露國の國是たる汎スラブ主義實現の第一歩であるがゆゑ、塡洪國、塞爾維の反目は又直ちに塡露兩國の反目たるは當然の歸結である。斯の如き事情である爲め、這次の皇儲暗殺が發端なるも延いて大戰の導火となつたのは、全く其理由が玆に存して居るのである。

兇變と塡獨兩皇帝

塡洪國のフランツ・ヨセフ皇帝は例年痔氣保養の爲め六月二十七日塡國イシュルの離宮に行幸されて居たが翌二十八日の正午皇儲暗殺の悲電が老皇帝の御手許に到達したので卽刻ウヰンナに還幸仰出され翌二十九日離宮御出發還幸されたが、老齡の上に、突然の悲報に接せられた爲め、其の御健康を氣支はれたるも、皇帝は無限の哀痛にも拘らず幸に御健康にて葬儀萬般を指導されたのであつた。又獨逸カイゼル皇帝は兇變當時の六月二十八日にはキール軍港に於ける快走船の大競爭會に行幸ありて親ら該競爭を審判せらるゝ爲め沖合遙に出航せられたる折しも、突如として鼠色に塗られたる一隻の水雷驅逐艦は隼の如く疾走し來りて皇帝の御座船に橫付け、暫らくして船首を廻轉して碇泊地に戻つたのであつた。驚て獨帝は帝室の快走船ホーヘンツオルレン號の甲板に現はれ給ひしが、暫時にして同快走船の滿艦飾は撤せられマストには半旗翩翻と飜へり、同時に信號旗揭揚され、獨逸軍艦の滿艦飾は悉く撤せられ、次で弔砲は殷々として海面に轟き、幾許もなく塡洪國皇儲幷に同妃の御遭難は公表され、當日の競爭會は中止の旨仰せ出されたのであつた。

塡塞兩國の國交斷絕

塡洪國にては這次の兇變と共に國民の激昂は甚だしく、サラエボに於ては排塞示威運動開始されたるが、塞爾維學生も亦之に對抗し形勢頗る險惡を呈したる爲め、六月二十九日同地に戒嚴令が布かれたるも、排塞運動は益々劇甚を加へたので、七月二日にはボスニア、ヘルツエゴヴキナの二州全般に亘りて戒嚴令を布かれた。越へて七日塡洪國聯合內閣會議はウヰンナに開かれて、ボ・ヘ二州に對する軍令を議し皇儲暗殺と大塞爾維主義との關係に對して極力調査を行ふ事となつた。而して此間に於て塡洪國政府は、塡塞國境に向つて着々守備を增加し、這回の機會に於て巴爾幹問題を自己に有利に解決せんと試み、斯くて後暗殺犯人處分に就て塞國に對し嚴重交涉する所ありたるも、塞爾維は何等之れに對して滿足を與ふる手段を執らなかつたので、塡洪國は終に塞爾維政府に向つて七月二十三日午後六時最後通牒を發した。該通牒の要領は左の如きものであつた。

塞爾維政府は一九〇八年塡國のボスニア、ヘルツエゴヴキナ併合當時最早塡國の兩州併合に對し妨害を加へざることを約せり、然るに塞爾維國民は爾來政府の目前にて右約束を履行するに於て全然誠意を缺けり、卽ち塡洪國に關する南方スラブ各州と塞爾維とを統一せんとするの運動は開始され、其運動は恐怖的行爲の敎唆と相伴へり斯くて塞爾維政府は各州の團隊によりて行はるゝ塡國に對する犯罪的活動を默認し、又新聞紙の塡國皇儲暗殺に對する賞讚の言詞を揭載するを默認し、甚だしきに至つては官吏、陸軍々人の塡洪國の保安を破らんとするの運動に參加するを禁止せざりしなり、サラエボに於ける皇儲暗殺等の自白は、該暗殺がベルグラードに於て企てられ、暗殺者等が銃器彈藥を同地國民共勵協會に屬する官吏軍人より供給せられつゝある事を明にせり、而して右暗殺用武器の輸送は實に塞爾維塡太利國境に在る高級軍人に依りて行はれたるなり、事實以上の如くなるを以て塡洪國政府は塞爾維政府に對し

一、塞國新聞紙の第一頁に塞爾維人の反塡的精神の不正當なるを宣明し且つ之に伴へる行爲を禁止するの最も嚴肅なる宣言を發表し且つ之と同時に同文の陸軍令を發して之を各軍隊に交付すべし

二、塞爾維政府は塞國新聞紙が塡國民に對する憎惡輕蔑心を助長するが如き言語を使用することを抑壓すべし

三、直に國民共勵協會の解散を命じ尙ほ將來同一性質の團體の再び組織せらるゝを禁止するの手段を採るべし

四、塞國各學校に於て使用せらるゝ敎科書より苟くも排塡運動を助長するが如き事項を除外すべし

五、排塡運動に參加せる總ての官吏軍人を直に免黜すべし

六、塞國に於て行はれんとする暗殺陰謀の調査に當つては悉く塡洪國政府代表者の之に參加するを承諾すべし

七、暗殺關係者の處罰は塡洪國政府監督の下に行はるべし

本通牒に對する應答は土曜日(二十五日)午後六時迄に之を爲すべし

右の通牒に對し塞爾維政府は回答期限前之が回答を與へたるも、塡洪國政府を滿足せしむること能はざりし爲め、塞爾維駐劄塡國公使は七月二十五日午後六時館員と共に同國を引揚げ、玆に兩國の國交は斷絕したが、塞國は同日午後三時全軍に動員令を下し、又其の首都たるベルグラードが國境に位置して防備上不便なので、直ちに王室及び政府は同地を撤去してニツシに之れを遷した。

列强間の折衝

由來、巴爾幹は歐洲外交の伏魔殿と稱されて居るのであるから、今回墺塞兩國の外交關係に於て、列强が頗る神經を過敏にして其成行に多大の注意を怠らないのは、素より當然である。而して就中露國は本問題に關して最も重大なる利害關係を有し、若し墺國が思ゝ儘に塞國を壓迫するのを傍觀せんか、既にボ、ヘ二州併合當時獨墺兩國に屈讓した例もあるから、將來露國は巴爾幹問題に有力な發言權を失ふに至るべければ、露國は此際塞國に多大の同情を寄せ居りたるが、七月二十日露國參議院は滿場一致を以て、墺國の塞國に對する態度は取も直さず露國に挑戰するものであるから、露國は之に對する回答は唯だ動員にある旨の決議を爲し、尙ほ當時露都訪問中なりし佛國大統領ポアンカレー氏が、同日露帝と會見の際、露帝は乾盃の辭を述べて「佛露二國同盟が其完全なる兵力によつて確保せらるゝ平和の幸福を永く享有するを疑はず」と言はれたのである。斯て墺國が對塞最後通牒を發したる翌日卽ち七月二十四日の夜、露國政府はクラスノヱ・セロの野營地に於て御前會議を開き、未だ墺國の要求內容を詳にせざるを以て塞國政府の回答期を延期せんことを墺洪國政府に申込む事に決し、次で二十五日公報を以て露國政府は頗る本件を憂慮し其成行に注意を怠らざると同時に、墺塞兩國衝突の場合には、露國は之を傍觀し能はざる旨を聲明した。而も墺國は之に對して本件は墺塞兩國の係爭にて第三國の干涉を許さずと圓滑に拒絕した。斯て墺塞兩國の外交關係は愈よ七月二十五日を以て事實上斷絕を見るに至つたが、此の兩國の開戰は歐洲列强間には容易ならぬ影響を及ぼし、結局全歐洲を擧げての紛亂を誘致するやも計り難いので、之れが平和解決に關する協議は列强間の問題となり英國外相グレー氏は七月二十七日下院に於て「英國政府は本件交涉が單に墺塞兩國間に局限せらるゝ間は、英國は干涉する限にあらざるも、一旦墺露間の國交を危くするに於ては全歐の安危に係る大問題となるから、直接關係なき英、佛、獨、伊の四國に於て平和解決に努むべき必要を認む」と陳べ、二十六日在獨佛伊の英國大使に對し各任國政府に向つて在英大使をして同大臣と共に倫敦に會議を開き時局解決に努力せしめんことを慫慂した。然るに右倫敦會議開催の提議に佛、伊兩國は同意したるも、獨逸政府は最初より本件を墺塞兩國間に局限せんとの意嚮を有したので、倫敦會議の件は墺洪國の好まざる所なるべしとて贊否を言明せず、而して萬一露國にして之に干涉せんか、獨逸は其同盟の義務を墺國に對して果さんとするの意を仄めかしたのであつた。而して既に塞國の回答日たる七月二十五日には獨帝は諾威の旅行先より、又參謀總長モルトケ將軍はカールスバート溫泉場より急遽伯林に歸還した。而して露國外務大臣サザノフ氏は七月二十六日獨逸大使と共にペテルコフに於て露帝に謁し、其同日午後獨、佛、伊、墺、英の各國大使幷に塞國公使と會見したるが、獨逸大使は獨逸政府が墺國最後通牒の內容に關しては何等の豫報を受けたる事なく、斯の如き問題が露國に憂ふべき感動を齎らしたるを悲むと共に、獨逸の親善を希望する旨を言及し、又墺洪國大使は同日露國外相と會見して墺洪國の要求は最後通牒の意味にあらず、又外交の斷絕は必ずしも戰爭を意味するものに非ずと說明した。尙同夜英國大使は獨墺對露國が開戰の曉は「英國は露佛同盟と共に戰爭に參加すべし」と宣言したのであつた。思ふに英國政府が强硬なる態度を表明したのは、平和解決の一手段であると認めたので、獨逸も亦成るべく戰爭を避けやうと試みたのであつたが、萬一避くべからざる場合には、少くとも英國を局外中立の地位に立たしめたしと焦慮し居りたるも、墺洪國は飽く迄も獨逸をして已れと共に起たしめんとして、萬事其の方針で事を進めた。而して其の最後通牒の如きも其內容は素より豫じめ獨逸に謀りたるべきも、獨逸の期せしよりも、急に之を塞國に發し、又露國の直接交涉提議を斷乎として拒絕したるに見るも、墺國の鞏固なる決意の程を窺ふべく、同時に又獨逸の後援を信賴したからである。斯くて同月二十八日墺洪國は塞國に對し宣戰を布告した。當日墺洪國政府は在墺我帝國大使館へ左の口上書を交附し帝國政府へ通知方を依賴した。（因に新任駐墺帝國全權大使佐藤愛麿氏は七月二十八日維也納に到着就任したのであつた）。

塞爾維國に其の基を發し墺地利洪牙利國の領土保全に反して行はるゝ破壞的侵迫を終熄せしめんが爲め墺洪國政府は一九一四年七月二十三日塞爾維國政府に對し要求條項を列記せる公文を致し之が承諾の爲め同政府に四十八時間の猶豫期間を與へたり

塞爾維政府は右公文に對し滿足すべき回答を與へざるを以て墺洪國政府は自ら其權利及び利益の擁護を期するが爲め干戈に訴ふるの緊要なるを自覺するに至れり墺洪國の開戰に關する一九〇七年十月十八日條約第一條に遵じ正式の宣言を塞爾維國に致したるにより爾來同國とは戰爭狀態に在るものと認む。

玆に上記の次第を日本帝國大使館に通知するに際し墺洪國外務大臣は抗敵行爲の行はるゝ間墺洪國は塞爾維國に於ても亦同樣の措置に出づべきことの保留の下に一九〇七年十月十八日海牙條約幷に一九〇九年二月二十五日倫敦宣言の諸條項を遵守すべき旨宣言するの光榮を有す

日本帝國大使館に於ては本通知を速かに本國政府に稟報せらるゝ樣致され度し

墺洪國の對塞宣戰布告は歐洲列强に尠からざる感動を與へ、就中露國に於ては喝采を以て迎へられ、露國政府は國家の威嚴と利權との警護の任に立つべき旨の公報を發した。而して翌二十九日陸海軍の一部に動員令を下し超へて三十日キエフ、オデツサ、カザン及び莫斯科の軍團に動員令を下し、墺國々境に向つて示威牽制運動を開始した。尙同日露國政府は「墺國は塞國の獨立を危ふし巴爾幹の勢力均衡を紊さんとす、是れ露國が墺國々境に動員するの已む無きに至れる所以なり」との公式宣言を發した、是は蓋し二十九日に獨逸

が其の御前會議に於て、露國は何故に塊國々境に動員せるやとの質問を發せるが爲めである。

又佛國は露國と全然其の行動を一にすべき旨改めて聲明し、獨逸の態度如何を注視しつゝ動員準備に着手した。獨逸は露國が動員を行ひたる旨通告に接するや其動員を中止し交涉すべきを露國に照會したるも、露國は獨逸の態度の曖昧にて誠意なきを推測したので、滿足なる回答を與へず、早晩獨逸が動員令を發するに至るべきを豫想し居つた。斯くして露國は七月三十日更に在歐全露三十五軍團の動員を決行したので、獨逸は其翌三十一日全國戒嚴令を施行して八月一日午前中に全國動員を行ふの準備を整へた。佛國も亦八月一日午後より一般動員令を布告した。

愈々列國の宣戰は布告さる

是より先、獨逸は七月三十日午後露國に對して最後通牒を送り十二時間を期して動員中止を要求したるが、該要求は素より露國の承諾し能はざるを豫期したるものであつた。果然八月一日獨逸は露國に對して宣戰の布告を爲したるが、其の前日獨逸皇帝は宮殿露臺より民衆に左の如く告げた。

『獨逸國民は今や重大なる危機に遭遇せり、吾人は劍に手を掛くるを强ひられつゝあり、若し最後に至り平和を維持せんと欲する吾人の勢力にして悉く無効に歸し愈々劍を拔くに至らば能く之を活用し瑕疵なき名譽を以て之を鞘に納めんことは朕の切望する所なり戰爭は血と金力の多大の犧牲を要求すべし然れども吾人は獨逸の容易に襲撃すべからざるを吾人の敵に敎へざる可からず』云々。

露國も亦八月二日獨逸に對し宣戰した。即ち大露國皇帝の宣戰詔勅は左の如くである。

『神祐により大露國皇帝は忠勇なる我臣民に告ぐ

露國は其光榮ある歷史に於て宗敎血族を同うするスラブ同胞の不幸に際し、未だ嘗て看過したる事莫し今次塊國が塞爾維に對し獨立國として忍ぶ可からざる要求を爲すに及び露國民のスラブ人に對する同情は强烈に發揮せられたり塊國は讒譖にして穩和なる塞爾維政府の回答を蔑視し露國の信誼的勸告を斥け俄に戰鬪動作を開始し防備なきベルグラードを砲撃せり、斯の如き狀況に依り朕は我祖國の防備の爲め餘義なく陸海軍の動員を命ぜり然れども朕は我國民の尊き犧牲を思ひて事件の平和的解決に全力を盡したるも塊國の同盟國たる獨逸は友誼的交涉の中に永年の信誼ある隣國の康寧を無視し我の行へる動員は獨逸に對し何等敵對行爲を意味せざるに拘らず直に之が中止を要求し我の之を拒絶するに及び俄に露國に對し宣戰を布告せり今や露國は獨り我同族國の侵辱に對するのみならず露國の名譽と國威とを發揚し以て列國中に於ける我國の地位を鞏固にせざる可からざるに至れり朕は朕の誠實なる臣民が協同一致を以て祖國の爲に盡すことを信じて疑はず、斯の如き危急の時に鑑み宜しく內部の不和を避けザーと臣民と相結合し全國一人の如くにして敵に當るべきなり、我目的の正義と正義を命じ給ふ神の旨を確信し朕は我國及び我忠勇なる軍隊に神の祝福を切願す』

斯くして猛然矢は遂に弦を離れた。八月二日獨逸は十萬の兵員をルクセンブルグ大公國に侵入せしめて其鐵道を占領し、同國の永世中立を侵し、同日午後在白耳義獨逸公使は白耳義政府に對し獨逸の軍事行動を容易ならしむる爲め一致の行動は執らんことを最後通牒の形式を以て提議し、十二時間內に回答を求めた。玆に於て白國政府は徹夜御前會議を開き、凝議の結果翌三日午前六時獨逸公使に斷然右の提議を拒絶する旨回答し、同時に英佛兩國政府に右の次第を通知し、且つ白國は極力中立を防護すべき旨を宣言した。蓋し獨逸は戰略上先づ以て白耳義を侵略するであらうとは、從來一般に想像されたのであつたが、果して玆に實現されたるにて、白耳義は終に戰爭の渦中に投するの已むなきに至つた。而して愈よ獨逸が白耳義の中立を侵犯せんとするや、英國は之を默視する能はず直ちに獨逸政府に最後通牒を送り八月四日午後十二時を回答期としたるに對し獨逸は此の通牒を顧みず、遂に白國に軍隊を侵入せしめて其の中立を侵犯したので、英國總理大臣アスキス氏は八月五日下院に於て、英獨兩國は四日以後交戰狀態に在ること幷に獨逸は白國の中立を侵害したるを以て、英佛露は協同して獨逸に當るべきこと、又白國は英軍の入國を以て境界侵犯と認めざる旨布告したることを陳述した

斯て塊塞問題は竟に歐洲大亂を醸生するに至つたが、米國政府は塊塞間及び獨佛間の戰爭に對し八月四日嚴正中立を布告し、又瑞典諸威、丁抹も同日局外中立を宣言し、伊太利も亦同日同樣の宣言を發し、三國同盟に加入して戰爭に參加せざることを明白にしたるが伊太利は果して終始中立を維持すべきや否やは頗る疑問とされ、動もすれば三國協商側に敬意を表する傾向があり、世界の疑問であつた、三國間同盟の實質は、這回の伊太利の中立によつて鼎の輕重を問はれたものと謂ふべきである。佛國は八月三日以來獨逸と交戰狀態に在る旨八月五日在佛帝國大使館に通牒し、瑞西は五日中立を宣言し、塊洪國は六日露國に對して宣戰し、西班牙並に支那は八月七日中立を布告し、塞爾維は獨逸に對し、又モンテネグロ國は塊國に對し何れも八月七日を以て宣戰した。

飜つて巴爾幹諸邦の情勢如何と見るに、勃牙利は此機に乘じて前年の巴爾幹戰爭の復仇を塞國に對して爲すと同時に、羅馬尼の勢力を削減せんとし、土耳古との密約を利用し土勃兩國相提携して獨逸に加擔すべしと傳へられ、羅馬尼は曩に露帝の訪問によりて親交の度を加へたので、七月二十七日其の第五軍團に動員令を下したるも三國協商側の爲めに或方面の牽制を目的とするものと解せられた。而して土耳古は塊國に同情し、土勃條約の履行を期せんとするものゝ如く、七月十三日陸軍大臣は宣言書を發し復仇戰の準備を爲さんとすることを切言したと報ぜられた。以上は千九百十四年九月下旬迄の形勢であつた。

英、佛、露三國の宣言。米國の調停提言

英、佛、露の三國は共同の敵に對して交戰を爲しつゝあるも、右三國間には戰後媾和の事に關し何等協約が無かつたので、三國政府は今次戰亂の終局に當り相互協議の上、媾和條件を議定する等の目的を以て急に協定を爲し置く必要を認め九月五日左の如く三國間に協約を締結した。

『下名は各其の本國政府より正當の委任を受け玆に左の通り宣言す

英國、佛國及露國は現戰爭中は單獨に媾和せざるべきことを相互に約す右三國政府は媾和條件を議する場合に於て孰れの同盟國も豫め他の同盟國の同意を經すして媾和條件を要求せざる可きことを約す

右證據として下名は本宣言に記名調印す

一九一四年九月五日倫敦に於て本書三通を作る

グレイ

カムボン

ベシケンドルフ』

英國外務大臣は右の趣を在英國帝國大使に通告すると同時に、同大使に對し左の如き覺書を手交した。

『英國政府と佛露兩國政府との間には從來何等の取極なかりしに依り今次協同に從事する戰爭に關し右二國政府と協約を締結したり日英兩國政府間には同盟協約第二條の規定あるが故に今更めて斯の如き協約を爲すの必要なし英國政府は媾和締結及媾和條件に關し佛露兩國政府が既に負擔する義務たる日英同盟協約の規定を毫も變更するものと看做すべからざること幷に英國政府が戰鬪及媾和に關し日本と協同し且双方合意の上に於て之を爲すは言を俟たざるものなることを佛露兩國政府に通告したり』。

米國大統領ウィルソンは八月五日英、獨、露、佛、墺各國元首に對し居中調停を申入れた、其提言は左の如くである。

『海牙條約に調印せる一國の元首たる余は最も熱誠なる友誼の精神に依り陛下（閣下）に下の進言を爲すを以て同條約第三條に基く余の特權にして且つ義務なりと信ず余は今日又は今後一層適當と思惟せらるゝ時期に於て歐洲平和の爲め活動する機會の到來を驅迎するものにして之に依り貴國幷に關係諸國の爲め微力を盡すことを得ば永く余の欣幸とする所なるべし』。

露國の對土宣戰

今回の戰爭に對する土耳古の態度は開戰の當初よりして頗る疑問を以て視られた。蓋し土耳古に於ける獨逸の勢力は其の根柢深く喰ひ入りて容易に動かすべからざるものあるが故、若し土耳古にして戰爭の渦中に投するに至れば結局獨逸に加擔すべきは素より明瞭と見られたるが、果然十月十九日土耳古の艦隊は黑海の沿岸なるノウロシースク市を砲撃し露國に對して戰鬪行爲を開始した。元來土耳古海陸軍の全權は殆んど獨逸軍人の掌握する所であるから、獨逸の强要する所となつて、斯くの如く開戰するに至つたことは明らである故に英佛兩國政府は駐土大使に訓電して駐土露國大使と共に土耳古政府に向つて土國陸海軍より獨逸軍人を排斥すべき事を要求し、若し容れられずんば英、佛兩國は露國と共に土耳古に對し宣戰すべき旨を通じたるも竟に滿足なる回答を得なかつたので、露國は遂に十一月二日土耳古に對して宣戰を布告し、英佛兩國大使も亦コンスタンチノープルを引揚ぐるに至り、玆に英佛對土國は國交斷絶の狀態となつた。

日本帝國政府の聲明

歐洲に於ける風雲極めて急なるに至るや、前途の形勢は極東に重大なる影響を及ぼすべく、殊に日英協約の關係と、帝國は全然局外者の地位に立つ能はざる事情にあるを以て、此際帝國政府は內外に對する帝國の態度を宣明するの必要を認め八月四日を以て左の聲明書を外務省より公示した。

『帝國政府は歐洲政局の最近の形勢に對し政治上及經濟上憂慮の念を禁ずる能はず而して帝國政府の切に冀望する所は右紛爭が一日も早く解決を告げ平和の克復を見るに在ること固より言を俟たずと雖も不幸現時の戰局が繼續する以上帝國政府は右戰局が可成紛爭の現に感染せる地方以外に波及せざらん事を冀望し且つ帝國政府は嚴正中立の態度を確守し得べきことを期待するものなり然りと雖も時局今後の轉變に就ては最も細心の注意を要するものあり萬一英國にして戰爭の渦中に投するに至り且つ日英協約の目的或は危殆に瀕する等の場合に於ては日本は協約上の義務として必要なる措置を執るに至ることあるべし此の如き時期の遂に到達すべきや否やは今日固より豫言し得ざる所なるのみならず帝國政府は斯る場合の發生せざることを切に冀ふものなりと雖も政府は諸般の情勢に對し現に愼重なる注意を加へつゝあり』

此の聲明が公示されたる八月四日の翌日、五日の午前九時より英獨兩國は遂に交戰狀態に入つたのであつた。而して其結果英國政府

より日英協約に基き相當の援助を與へられんことを申出で來つた。而して東亞の海面には獨逸艦艇頻りに出沒して英國の海上貿易は甚だしく不安の狀態に陷り日本の海上商業も亦障礙を受くること鮮少ならず且又獨逸の極東租借地たる膠州灣に於ては日夜戰備を修むるに汲々たる有樣にて、同地を以て東亞の策戰根據地と爲さんとし、之が爲め極東平和の維持も甚だしく懸念せらるゝに至つた。

御前會議と對獨勸告

玆に於て我が政府は八月十五日午後四時三十分より宮中牡丹の間に於て御前會議は開かれた、島村軍令部長、長谷川參謀總長、大山元帥、山縣元帥、松方侯等相前後して參內し、各大臣は此日開かれた臨時閣議終了後、共に參集し、陛下の臨幸を待ち奉つた。陛下には午後四時五十分牡丹の間に出御あり各員最敬禮中に玉座に着かせられた。大隈首相は歐洲戰亂の發端より今日に至る迄の經過並に之に對する帝國の態度に關し詳細に奏上する所あり、次で加藤外相は戰亂に對する關係諸國の態度及び關係列國との折衝顚末等に就て報告し、尙は軍事經濟其他に就て主管大臣の說明あり更に御下問に對しては各員より夫々奉答し、夫より大隈首相の提案に對し愼重審議し何れも異議なく之を可決し六時十分會議を終り直に聖斷を仰ぎ奉り玆に時局に對する帝國の態度愈よ確定し陛下には諸員敬禮の裡に入御あらせられ次で一同退出した。

而して帝國政府は陛下の御親裁を仰ぎ奉つた上、英國の要求に應ずる事となり、英國政府と充分意見の交換を爲し、更に再三元老內閣會議を開催したる後八月十五日を以て獨逸政府に對し、左の如き友誼的勸告を試みた。

『帝國政府は現下の狀勢に於て極東の平和を紊亂すべき源泉を除去し日英同盟協約の豫期せる全般の利益を防護するの措置を講ずるは該協約の目的とする東亞の平和を永遠に確保するが爲めに極めて緊要の事たるを思ひ玆に誠意を以て獨逸帝國政府に勸告するに同政府に於て左記二項を實行せられむことを以てす

第一

日本及支那海洋方面より獨逸國艦隊の卽時に退去すること。退去する事能はざるものは直に其武裝を解除すること

第二

獨逸帝國政府は膠州灣租借地全部を支那に還附する目的を以て一九一四年九月十五日を限り無條件にて日本帝國官憲に交附すること

日本帝國政府に於て敍上の勸告に對し一九一四年八月二十三日正午迄に無條件に承諾の旨獨逸帝國政府よりの回答を受領せざるに於ては帝國政府は其の必要と認むる行動を執るべきことを聲明す』

右最後通牒は十五日午後七時外務省より外務次官松井慶四郎を麹町區永田町の獨逸大使館に差遣し獨逸大使レックス伯に交附せしむると同時に、在獨帝國代理大使船越光之丞に打電して獨逸政府に提出すべき旨訓電した。然るに獨逸政府よりは所定の期日たる八月二十三日正午に至るも竟に何等の回答に接せざりしを以て、玆に日獨兩國は同時刻より交戰狀態に入り、外務省より同日獨大使に旅券を交附した。斯くて此日を以て獨逸に對して宣戰の大詔は渙發せられた。

宣戰の詔書

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル大日本國皇帝ハ忠實勇武ナル汝有衆ニ示ス

朕玆ニ獨逸國ニ對シテ戰ヲ宣ス朕カ陸海軍ハ宜ク力ヲ極メテ戰闘ノ事ニ從フヘク朕カ百僚有司ハ宜ク職務ニ率循シテ軍國ノ目的ヲ達スルニ勗ムヘシ凡ソ國際條規ノ範圍ニ於テ一切ノ手段ヲ盡シ必ス遺算ナカラムコトヲ期セヨ

朕ハ深ク現時歐洲戰亂ノ殃禍ヲ憂ヒ專ラ局外中立ヲ恪守シ以テ東洋ノ平和ヲ保持スルヲ念トセリ此ノ時ニ方リ獨逸國ノ行動ハ遂ニ朕ノ同盟國タル大不列顚國ヲシテ戰端ヲ開クノ已ムナキニ至ラシメ其ノ租借地タル膠州灣ニ於テモ亦日夜戰備ヲ修メ其ノ艦艇蒼ニ東亞ノ海洋ニ出沒シテ帝國及與國ノ通商貿易爲ニ威壓ヲ受ケ極東ノ平和ハ正ニ危殆ニ瀕セリ是ニ於テ朕ノ政府ト大不列顚國皇帝陛下ノ政府トハ相互隔意ナキ協議ヲ遂テ兩國政府ハ同盟協約ノ豫期セル全般ノ利益ヲ防護スルカ爲必要ナル措置ヲ執ルニ一致シタリ朕ハ此ノ目的ヲ達ケムトスルニ當リ尙努メテ平和手段ヲ悉サムコトヲ欲シ先ツ朕ノ政府ヲシテ誠意ヲ以テ獨逸帝國政府ニ勸告スル所アラシメタリ然レトモ所定ノ期日ニ及フモ朕ノ政府ハ終ニ其ノ應諾ノ回牒ヲ得ルニ至ラス

朕皇祚ヲ踐テ未タ幾何クナラス且今尙皇妣ノ喪ニ居レリ恒ニ平和ニ眷々タルヲ以テシテ而カモ竟ニ戰ヲ宣スルノ已ムヲ得サルニ至ル

朕深ク之ヲ憾トス

朕ハ汝有衆ノ忠實勇武ニ倚賴シ速ニ平和ヲ克復シ以テ帝國ノ光榮ヲ宣揚セムコトヲ期ス

御名御璽

大正三年八月二十三日

各大臣副署』

次で又同月二十七日官報號外を以て日墺國交斷絕の次第左の如く發表された。

『内閣告示第五號

帝國駐剳塊地利洪牙利國特命全權大使は八月二十七日日本國政府の訓令に基き帝國を引揚ぐる旅行券の交附を帝國政府に請求したるに付帝國政府は同日之を交附し塊地利洪牙利國駐剳帝國特命全權大使に對しては直に同國を引揚ぐべき旨電訓したり。

内閣總理大臣　伯爵　大　隈　重　信』

巴爾幹方面の交戰

曩に塊塞の國交斷絶するや、兩國の軍は直にダニューブ河を挾んで、彼我ともに十五萬の兵を集中して戰端は開かれた。塊軍は猛然一擧にして塞爾維の國都ベルグラードを突かんとして失敗したるも八月中旬に至り其目的を達した。而かも塊は一方東方戰線の進捗するに伴ひ、ガリシヤ方面に力を注がねばならぬより勢ひ塞爾維に對する攻撃の手を緩めざるを得ざる事となつた。玆に於て塞軍は此の虚に乘じて黑山國軍と協力して、盛に逆襲を試み連戰連勝して十一月十四日、(千九百十四年、大正三年)までに首都ベルグラードを奪還した。斯くして冬期に入れると共に目覺しき戰は演ぜられなかつた。而して聯合軍は土耳古が獨逸側に參加することゝなつたので千九百十五年(大正四年)三月ダーダネルス海峽を脅威する爲めにガリポリに軍を進めたが失敗に歸した。當時希臘の向背が兩軍に取りて重大なる關係を有したので、聯合軍は巴爾幹の戰況に對し、及び希臘の態度を監視する目的の下に、兵をサロニカに上陸せしめた。斯くして聯合軍は土耳古と獨軍との聯繫を絶ち塞軍を危殆より救ひて巴爾幹の運命を決せんとしたが、此時獨の猛將として知られたマツケンゼン廳下の兵は巴爾幹に出現した。マツケンゼン將軍はガリシヤに於て露軍を粉碎して隆々たる名聲を轟かしたので、マツケンゼン來るの報は、頗る塞軍を戰慄せしむると同時に塊軍は大に力を得た。果然巴爾幹の戰況は著しく變化し、塊軍と共にマツケンゼン軍は決河の勢ひを以て殺到し、ダニューブ河を壓してベルグラードに向ひ該首都を占領した。此の形勢を觀望せるブルガリヤ利(ブルガリヤ)は其後獨塊軍に參戰して塞國の國境を破つて突入したので、塞軍は三方より攻撃を受け退却又退却して遂に全土を擧げて敵軍の蹂躙に委すの已むなきに至り、十二月二十五日政府を黑山國に移すの悲運に遭遇した。サロニカに上陸した聯合軍も、アルバニアに上陸した伊太利軍も塞軍を援ふに何の力もなく、斯くして塞國軍は最後の地點たるモナスチールまでも敵に占領された。越へて翌年千九百十六年(大正五年)一月には黑山國も亦塊軍の手に歸し巴爾幹の運命は僅に聯合軍がサロニカの狹地に働きつゝあるに過ぎぬ狀態であつた。然るに同年の十一月十九日サロニカ軍はモナスチールを奪還し、東部方面に於ける露軍の戰況良好と見るや、羅馬尼は決然起つて聯合軍に參加し、先づトランシルバニヤより塊國に侵入して二三の重要地點を占領した。此時塞國に在つたマツケンゼン將軍は獨勃軍を率ゐて直ちに羅馬尼のドブルヂヤ州より進撃し、露、羅兩軍に殺到し破竹の勢を以て敵を壓迫したので、露羅兩軍は擊退されて北方に潰走した。又ファルケンハイン軍は塊羅國境の山地から殺到して露羅の側面から打つて出で、十二月六日遂に難なく羅馬尼の首都ブカレストを占領した。斯て羅馬尼は參戰後僅に半歲を出でずして全敗するに至つた。以上は大戰開始以來巴爾幹に於ける戰況の全般である。

マツケンゼン將軍
塞軍を粉碎せる獨逸

青島方面の戰況

曩に日本は獨逸に對して宣戰を布告し直ちに作戰行動を開始するや、長谷川參謀總長は獨立第十八師團長陸軍中將神尾光臣に命ずるに青島要塞の攻略を以てした。越へて大正三年八月二十七日加藤(定吉)海軍中將の率ゐる第二艦隊は膠州灣を封鎖した。而して翌二十八日を以て青島出征軍は長崎及び宇品の兩港より出發した。

〔青島出征の兵力〕　青島出征の日本軍兵力は人員總數約五萬であつて、其戰鬪序列は左の如くである。

出征軍總司令官、獨立第十八師團長
陸軍中將　神　尾　光　臣
參謀長陸軍少將　山　梨　半　造

師團本隊(直屬部隊師團司令部、騎兵一分隊、航空隊、獨立第十八師團野戰電信隊、無線電信隊)
第一師團(長歩兵大佐堀均、歩兵第五十五聯隊、野砲兵第二十四聯隊第二大隊、同聯隊段列、第十八師團電話隊)
第二師團(長陸軍少將堀內文次郎、歩兵第二十三旅團司令部、歩兵第十八師團衛生隊、同第一、同第二野戰病院)
第三師團(長陸軍輜重兵中佐野中光祥、工兵獨立第四大隊第三中隊の一小隊、第十八師團第一、第二歩兵彈藥縱列、同第一、第二砲兵砲藥縱列、同第一糧食縱列、同第三、第四野戰病院)
山田支隊(長陸軍少將山田良水、歩兵第二十四旅團「歩兵第四十八聯隊の二中隊缺」騎兵第二十二聯隊「一小隊に二分隊缺」野戰砲兵第二十四聯隊本部及第一大隊、山砲兵中隊、工兵第十八大隊、工兵獨立第四大隊「一中隊と一小隊缺」第十八師團衛生隊

擔架一中隊、第十八師團架橋縱列、第十八師團第一糧食縱列「半縱列缺」

【協同作戰の英軍】　我が同盟國たる英國にては大戰勃發するや我が帝國に對し、東洋に於ける軍事行動を共にすべき事を通知し來りて、英國にては當時北支那に駐在せし左の兵力を日本の青島出征軍總司令官指我れ亦之に同意の旨を答へ、兩者の意志玆に一致したので、揮の下に協同作戰せしむる事となつた。

本國正規軍一大隊（將校以下英國兵八百七十一、支那人五十六）及び印度兵半大隊（英國將校八、土人將校八、土人下士卒四百四十七）

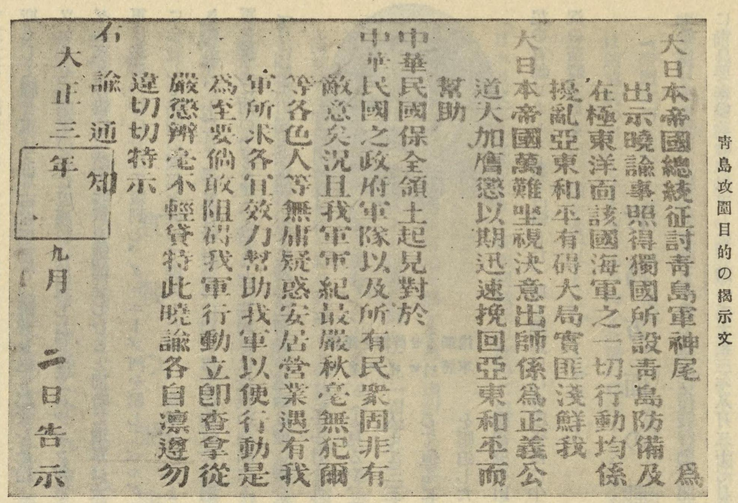
而して之が將は英國陸軍少將バーナーヂストン將軍である。

【我軍の上陸、策戰】　宇品及び長崎を發したる第一期輸送の我が出征軍は龍口に着し九月二日より海軍助力の下に上陸を開始し、其間天候險惡に遭遇し、爲めに同月十五日に至つて完く上陸を了り、直に前進を開始し、到る所を占領し、先鋒隊は進んで青島の背後に迫らんとした。又第二期輸送の軍は勞山方面に向つて上陸すべく、同灣内に於る日本艦隊掩護の下に九月十八日上陸を開始し同二十六日全く了り天候回復を俟て進軍した。而して龍口に上陸した日本軍航空隊に屬する飛行機は屢々豫備飛行を行ひて敵の陣地を偵察する所あつた。英軍も亦勞山に上陸し、攻擊軍の勢力日に加はると共に、獨逸の青島要塞守備軍は日夜必死となりて防禦工事を急ぎ、又所々に斥候を派して我軍の進擊阻止に努めつゝあつた。

元來青島は支那の一漁村であつたが、一千八百九十九年（明治三十二年）二月獨逸の租借する所となりてより極東方面に於ける獨逸の野心を滿たす爲め青島を絶好の根據地としたので忽ち世界列國の注視を喚起した。而して獨逸は玆に儼然たる要塞を形成するに至つたのである。然るに一千九百十四年（大正三年）八月十五日俄然日獨國交斷絶の報が青島に傳はるや、該要塞總督ワルデツクは忽ち令を傳へて支那人夫一萬餘人を驅集め、多額の勞銀を拂ひて海泊河左岸の高地一帶に半永久的の堡壘砲臺を急造し、之を以て陸正面に於ける本防禦線としたが、日本軍より背面を襲はれんとは、彼の夢想だもせざる所であつた爲め、其の防備は海上正面にのみ重きを置いたのである。而して海正面の防備としては、灰泉角砲臺、オウガスト岬南砲臺、臺西鎭砲臺ユイスイサン岬砲臺等、何れも敵の海岸と對戰するに粗ぼ遺憾なき程度に、大中口徑砲を備へたるのみならず、其の工事も艦載砲の射擊に對抗し得る程度に最も堅固の設備を爲した。けれども是等は何れも低砲臺であつた。次に陸正面に設けたイルチス砲臺、ビスマルク砲臺、ビスマルク山南砲臺、モルトケ砲臺等は、何れも花崗岩質の高地上に置かれ、特にモルトケ砲臺以外の諸砲臺は凡て陸海兩方面に對して應戰し得るの設備を有した。守備兵は日獨國交斷絶前に於ては二千六百餘名であつたが、北支那に駐屯せる兵及び軍艦より揚陸せる海兵に加ふるに塡洪國の陸海軍兵を合算して、宣戰と共に其の總兵力は著しく增大し約七千以上に達した。且つ艦載砲中陸揚し能ふ限り其据付を爲したので、是を通算すると少くとも百數十門に達したとの事である。又青島方面に於ける海軍勢力は裝甲巡洋艦二、巡洋艦四、砲艦四、驅逐艦二、河用砲艦三の外、假裝巡洋艦三、合計總噸數四萬噸に達した。而して國交斷絶當時裝甲巡洋艦を始め有力なる艦船は、多く南洋方面に出動し居り、其他砲艦中武裝を解除して之を陸正面の防備に資したるもの數隻あつたので、開戰當時實際膠州灣内に潛伏したる艦船は僅かに三等巡洋艦以下八隻及び塡洪國軍艦一隻に過ぎなかつた。

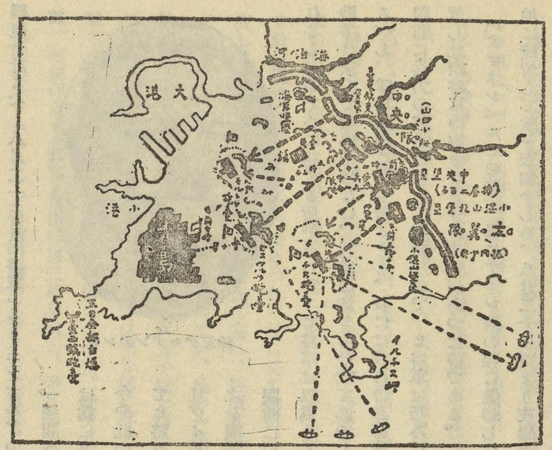
【總攻擊の開始】　我が攻圍軍諸隊は九月二十八日以降漸次前進し、十月二十九日に至りて一齊に陣地を進め、敵の本防禦線を距る千五百米乃至二千米の地點に達し、玆に攻城砲掩護陣地を占め、又飛行機をして敵上航空を行はしめた。翌三十日攻圍軍第一線諸隊は四方より東吳西家村を經て辛家庄に至る地點を確實に占領し、更に前進の準備を整へた。此日司令部は神尾中將以下幕僚は張村を發して浮山後に向ひ、各隊諸般の攻城準備完了を告げたるを以て神尾總司令官は各隊に向ひ、翌三十一日即ち天長の佳節を期して愈々總攻擊開始の命令を下した。斯て三十一日の拂曉、日英兩軍の陣地より先づ一發の砲聲は寂寞を破つて放たれた。是れ實に青島總攻擊の第一彈である。此の一彈を合圖として右翼孤山より左翼浮山後に至る全線一齊に砲擊を開始し、灣外の日本艦隊また是れに和した。午前六

青島攻圍目的の揭示文


大日本帝國總統征討青島軍神尾　爲
出示曉諭事照得獨國所設青島防備及
在極東洋面該國海軍之一切行動均係
擾亂亞東和平有碍大局實匪淺鮮我
大日本帝國萬難坐視決意出師係爲正義公
道大加膺懲以期迅速挽回亞東和平而
幫助
中華民國保全領土起見對於
中華民國之政府軍隊以及所有民衆固非有
敵意矣況且我軍軍紀最嚴秋毫無犯爾
等各色人等無庸疑惑安居營業遇有我
軍所求各官效力幫助我軍以使行動是
爲至要倘敢阻碍我軍行動立卽查拿從
嚴懲辦毫不輕貸特此曉諭各自凜遵勿
違切切特示
右諭通知
大正三年　九月　二日告示

是は我軍隊が青島上陸に當り土地の住民に對して安堵せしむる爲め特に青島攻圍軍總司令官神尾將軍が攻圍の目的を表明して揭示せる全文である。

時五十五分大港内の炭庫及び同港東方の油槽は火災を起し、敵の各壘相次で破損した。就中小湛山、イルチス等の諸堡壘は我左翼の攻圍軍及び巫山沖の日本艦隊より發する砲撃の爲め海陸の十字火を浴びて慘憺たる損傷を蒙り殆んど應戰を試むる者なく、且つ日本軍飛行機亦爆彈を投下して、多大の効果を齎した。翌十一月一日も亦前日と同じく早朝より攻撃を開始し、英國軍艦又海上よりビスルク砲臺を砲撃した。翌二日即ち攻撃の第三日は降雨なりしも攻撃を開始したるが敵は前日同様概して沈默し居りたるも臺西鎭砲臺、ビスマルク南砲臺、會前岬砲臺は應戰を怠らず、會前岬砲臺の如きは最も奮戰した。此日英國軍艦トライアムフ亦海上よりビスマルク砲臺に向つて砲撃を加へた。翌三日敵はイルチス山砲臺より盛に日本軍陣地に向つて砲撃を加へ、夜に入て一層猛烈となり、日本軍亦之に應戰砲撃した。此の日の朝膠州灣に在つた墺國軍艦カイゼリン・エリザベットは自ら爆沈した。翌四日攻圍軍の砲撃は一層盛に加へられた。此日攻圍軍第一線諸隊の第二攻撃陣地の構築は大に進展し、深夜より拂曉にかけて確實に陣地を占領した。而して第二中央隊の左翼は進んで第三攻撃陣地へ交通を開始し、此間攻城砲は敵の第一線堡壘に向つて猛射し、尙且つ青島市街に對し威嚇射撃を加へて發電所を破壞した。



青島戰局圖

〔日本艦隊の活動〕　是より先、日本海軍は攝津、河内、安藝、薩摩、矢矧、平戸、新高、笠置、音羽、驅逐隊四隊より成る第一艦隊を黃海より東海北部に亘る海面に配備し、周防、石見、丹後、沖島、見島、且つ青島市街に對し威嚇射撃を加へて發電所を破壞した。

〔日本艦隊の活動〕　是より先、日本海軍は攝津、河内、安藝、薩摩、矢矧、平戸、新高、笠置、音羽、驅逐隊四隊より成る第一艦隊を黃海より東海北部に亘る海面に配備し、周防、石見、丹後、沖島、見島、且つ青島市街に對し威嚇射撃を加へて發電所を破壞した。

〔青島遂に陷落す〕　斯て十一月五日に至り、日本軍は飛行機を青島市街の上空に飛ばし、兵器、軍艦、其他の建築物を無意味に破壞するなからん事を注告する獨逸文の印刷物を敵の堡壘線に撒布し、海軍亦丹後、沖島、見島各軍艦を以て、市街並に海岸諸砲臺に向つて猛射を加へた。斯くの如く連日攻撃ますゝ加はると共に、歩兵の突撃は開始せられ、遂に十一月七日の早朝に至り、敵は市の東方天文臺上に大なる白旗を揭揚して降伏の意を表し、次いで各堡壘は日章旗翻翻として朝風に戰ぎ、萬歳の聲は天地を震撼し、青島要塞は茲に陷落を告げた。此の戰に於て日本軍の戰鬪參加員は總數貳萬九千二百七十二人にして死傷一千二百四十五人。獨逸軍戰鬪員四千九百二十人、內捕虜となつて日本內地に護送されたるものは、守將ワルデック中將以下軍人四千五百六十七人、文官其他百二十二人であつた。

〔勅語及び御沙汰〕　青島陷落の報、叡聞に達したので、畏くも大元帥陛下には我陸海軍將卒に左の勅語及び御沙汰を賜ふた。

勅　語

青島ハ敵ノ東亞ニ於ケル唯一ノ根據地ニシテ水陸ノ防備堅ニ侮ルヘカラサルモノアリ青島攻撃ニ參加シタル我陸海軍ハ開戰以來協心戮力勇戰奮鬪其堅壘ヲ拔キ其艦艇ヲ沈メ遂ニ敵地ヲ陷シ以テ戰鬪ノ目的ヲ達シタリ朕深ク爾將卒ノ克ク其重任ヲ全クシ偉大ノ功績ヲ奏シタルコトヲ嘉ス

英軍への御沙汰

我が大元帥陛下は青島攻撃の爲め英國陸海軍が帝國陸海軍と共同作戰に從事し勇戰奮鬪の末堅壘を拔き艦艇を沈め遂に敵城を陷れ戰鬪の目的を達するに至りたる至大の功績を深く御感賞あらせらる又英國陸相キツチナー元帥は我國に對して左の祝電を寄せられた

對青島作戰の御成功に對し謹で熱誠なる祝意を表す、何卒御出征軍軍の戰友と聯合せしを誇りとす。

斯くて青島陷落の報一たび全國に達するや、國を擧げて戰捷に熱喜し、東京市にては其の夕、直ちに盛大なる祝賀會を催し、宮城前より日比谷公園に到り、長蛇の如く紅燈は點ぜられ、萬歳歡喜の絕叫に全市は沸き返へる賑ひを呈した。越へて十二月十八日戰捷將軍神尾總司令官は東京驛に凱旋し、山の如き群衆は武勳赫々たる將軍を歡迎したのであつた。

日本海軍南洋諸島を占領す

獨逸は曩に南洋に多くの植民地を有し、且つ之を以て獨逸海軍の寄港地と爲しつゝあつたのであるから、日本は對獨開戰と共に是等獨軍の海軍寄港地を覆滅することは、最も緊急事たるを以て、日本海軍は英國海軍と策應して、獨逸の有する南洋諸島を攻略する事に

決し、一九一四年（大正三年）十月先づ以てマーシャル群島中のヤルート島を占領し、次で爾餘の諸島及びマリヤナ群島カロリン群島をも占領した。

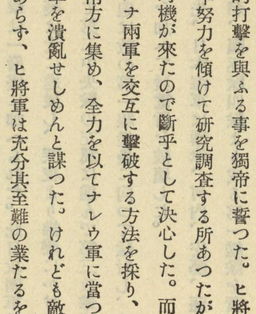
英國も亦サモア、ソロモン、カイゼル、ウキルヘルム・ランド等の諸島を占領した。斯くて南洋に於ける獨逸の植民地は玆に全部悉く日英兩國の手に依つて完全に占領するに至つた。

東部戰線に於る露獨兩軍

一九一四年（大正三年）八月大戰の開始せらるゝや、獨逸は其兵力の大部分を白耳義、佛蘭西方面なる西部戰場に傾注し、露國に對する東部方面は比較的之を緩漫に付して居つた。蓋し獨逸は露軍の集中の遲々たるを知つて、僅かな兵力を之に備へ置き、全主力を西部に向け、先づ以て一擧に佛國を蹴破し、再起の能力なきに至らしめたる後、大兵を東部に轉送して露軍に當らしめんとしたのである。然るに案外にも露軍の集中は頗る迅速であつた、卽ち露軍は二十五軍團の兵力を六軍に分ち、其第二軍を東普魯西の國境方面に集中し第四軍を南方ルブン、ロウノ間に配置して猛烈なる攻勢を取り、一方西北面より塊軍を包圍して殲滅した。

〔露軍の東普侵略〕　是より先、露軍は東普侵入軍として二軍卽ち北方軍を編成し、第一軍なるヴイルナ軍はレンネンカンプ大將之を指揮し、其兵數約二十三萬、第二軍たるナレウ軍はサムソノフ大將之を指揮し、其兵數約二十三萬、尙此他に豫備軍を準備し、總兵數實に五十萬と言はれた。斯て露國は此兵力を以て東普方面に進軍し、レンネンカンプ將軍の率ゆるヴイルナ軍の主力は、アイトクーネン、ニーメン河の間に於て國境を越へて獨逸領内に侵入し、八月十七日にはスタルベーネン附近に達し、行々獨逸の小敵を驅逐して同月十九日グンビンネン附近に迫つた。獨軍は豫てよりグンビンネンに堅固なる陣地を築設して敵の襲來に備へ、第一軍團長フオン、フランソア將軍は此所の守備として在任し居りたるが、露のヴイルナ軍は、北はビルカルレンより南はゴルグツプに至り三十五哩の正面に亘つて前進し、八月二十日を以てグンビンネン守備軍と激戰を開始するに至つた。此日露軍は充分敵に威壓を加へた後、歩兵の主力を以て敵の正面に肉迫し、他の一隊を以て敵の背後に廻り、激戰二十四時間に亘りて遂に獨軍を潰走せしめた。而してヴイルナ軍の右翼は同日敵の逆襲に遇ひて一度ビルカルレンを失ひしも翌日之を奪還して前進を繼續し、左翼は二十一日終日激戰し、中央軍は敵の退却を逐ふてインステルブルクに前進し、是れと前後して北方に於けるヴイルナ軍の一隊はニーメン河畔テルヂツトの東方に現れ、敵を驅逐して南下せんとした。獨軍は此の優勢な露軍を阻止することが到底不可能であると自覺し、インステルブルク方面は露軍の蹂躙に委し、全力を南方に集中してナレウ軍を潰滅せんと欲して密かに兵力を南方に移した。而してレンネンカンプ將軍のヴイナル軍は殊更に逃ぐる敵を追窮せず、徐々として前進を繼續し、同月二十一日遂に南方ゴルダツフを占領し、越へて二十四日北方チルジツトを奪取し、同日又インステルブルグを略取し、斯くしてマズール湖沼地帶以北の東普一帶は全く露軍の征服する所となつた。更にレンネンカンプ軍はアルレ河に向ひ、進んでケーニヒスベルヒの要塞を脅威するに至つた。

〔ヒンデンブルグ將軍の劃策〕　如上の敗報に接した獨帝は非常に憂慮し、遽に當時休職中であつたヒンデンブルグ大將を起して銳意回復を計るべく八月二十三日同將軍をマリエンブルグの大本營に招致した。



ヒンデンブルグ元帥

一週間内に獨逸軍の頽勢を挽回して敵に決定的打擊を與ふる事を獨帝に誓つた。ヒ將軍は曩に退職中同地に於ける防禦作戰に就て多年努力を傾けて研究調査する所あつたが、今や此の蘊蓄を傾けて實地に試みんとするの時機が來たので斷乎として決心した。而してヒ將軍は先づ第一着手としてナレウ、ヴイルナ兩軍を交互に擊破する方法を採り、一旦ヴイルナ軍の正面に向へる兵力の大部分を南方に集め、全力を以てナレウ軍に當つて之を殲滅し、更に其軍を北に轉じてヴイルナ軍を潰亂せしめんと謀つた。けれども敵の眼前に於て軍を南方に移送することは容易にあらず、ヒ將軍は充分其至難の業たるを知れるも、深く心に期する所があつた。ヒ將軍は以爲らく、露軍は假令其の兵數に於て獨軍に優越したるも、元は唯だ單に數のみである戰爭は決して數學ではない、兵數の多きもの敢て必ずしも勝を制するとは限らぬ、統率作戰の妙は優に兵力の寡少を補償し得て餘りあるべし、露軍如何に勝ち誇るとも、我には我れの必勝策の存すると、將軍の氣宇既に露軍を呑むの慨があつた。而かも此際敵軍監視の眼前に兵力の移送は極めて困難なので、ヒ將軍は巧みに敵の監視を欺き小數の兵を殘留して敵を牽制しつゝ移送を敢行せざるを得ず、蓋し此際將軍の胸中は充分の成竹があつたのである。

〔タンネンベルヒの戰〕　曩にアルレ河の線に退却した獨軍はヒ將軍の劃策の下に其の退却中悉く編成を了りて僅少なる騎兵部隊を陸地に殘留して敵を牽制せしめ、八月二十日頃より夜間を利用して巧に戰線を離れて南方軍に合したる後、全軍の大部分を以て二十六日ギルケンブルグ、タンネンベルヒ、ホーヘンスタイン附近に堅固なる陣地を占め、其の兩翼を天然の障碍に托し、且つ強力なる砲兵器を配置し、以て突進し來るナレウ軍を阻止した。是より先、ヒ將軍は露のヴイナル軍が獨軍の兵力移動を察知して新たなる運動を起さんとするに先んじ、露のナレウ軍を殲滅するにあらざれば苦心劃策の効あらずと爲し、ナレウ軍をして作戰に困難なるマヅー湖沼地帶

に誘致し、其困憊するに乗じて快速敏捷なる行動の下に猛撃を加へて間一髪の時機に絶滅を期した。斯てヒ將軍は如上の策戰の下に獨軍第一、第十七、第二十の三軍團及び豫備第一軍團の主力をして悉く移送し了つた。此の大膽にして細心なるヒ將軍の神謀鬼策は、露軍に取りては實に大意外であつた。既にして獨軍は豫定行動を遂行し、一部はアルレンスタイン方面より露軍の右側を衝き、一部は遠く南方のラウテンブルヒ方面より迂回して露軍の左翼を包圍せんとした。斯くも知らぬ露のナレウ軍はマゾール湖沼地帶を繞ふて各軍とも廣正面に前進し來り八月二十五日に至り獨軍の正面陣地なるホーヘンスタイン、タンネンベルヒの戰線に向て主力を集め、敵の援軍到らざるに先んじて擊滅せんとし猛烈なる中央突破を開始した。然るに獨軍の陣地は堅固なるが上に、不用意にも湖沼地帶に侵入したので露軍は前進意の如くならず、此時に當りて獨軍は得たりと豫定の包圍活動は着々進捗したので、露軍の危機は今や刻一刻と逼つた。此間に於て獨軍は主要なる鐵道を悉く占領し、八月二十六日ヒ將軍は右翼のウスタウ附近に優秀なる砲兵を集め、露軍の左翼を包圍して後退せしめ、翌二十七日鐵路を利用して主力を左翼のアルレンスタイン方面に移し、露軍の右翼に向つて壓迫を加へ、次で二十八、二十九兩日に亘り益々右翼を包圍し、遂に露軍を三角形内なる湖沼地帶に包み込み、而して敵の退路を悉く鎖したのであつた。玆に於て露軍は全く敵の術中に陷り、沼澤地帶に踏み迷ひて如何ともする能はず、砲車は泥中に沒し、人馬は沼澤に溺れ、或は敵彈に斃れ、狼狽其極に達し、名狀すべからざる混亂を呈し、唯だオルテンスブルグよりヨハニスブルグに通ずる一方の活路あるのみで有つたが、此の一路すら又既に獨軍の爲めに閉止されて退路は全く絶たれ、進退維れ谷まるの窮狀に陷つた。斯て露軍のサムソノフ大將は百方手段を講じて一方の血路を切り開かんと欲し三十日敵彈雨注の間を幕僚全部と共に進行し、地圖を展じて退路を研究する際、敵彈は司令部に落下しサムソノフ大將を始め、參謀ベステツチ將軍以下數名の將校は戰死し、此日露軍の一軍團長マルトス將軍も亦俘虜となつた。斯て五日間に亘るタンネンベルヒ附近の戰は非常なる露軍の大敗に歸し、露軍は戰死四萬、無傷俘虜九萬餘、負傷捕虜三萬を出し、辛うじて國境外に潰走し、斯くして獨軍は大勝を收めた。

露國のレンネンカンプ將軍の率ゆるヴイルナ軍は、サムソノフ將軍の苦境に陷れるも赴援せず、唯だ堅固なる陣地を據守せるのみであつたが、ヒ將軍麾下の獨軍は戰捷の意氣を以てレンネンカンプ軍の左側を襲撃せんとし、九月初旬敵の主力陣地前に進出し、レツツエン東方に亘る線上を占め、左方ケーニヒスベルヒに連絡しインステルブルクを目標としてヴイルナ軍を包圍攻撃すべく計畫完く成つた。同時にフオン・モルゲン指揮の獨軍一豫備師團をリック方面よりするスベルヒの守兵はチルヂツト方面の敵を牽制し、主力を擧げて敵の左翼レツツエンに逼り包圍の準備を完成した。レンネンカンプ軍は主として前方ケーニヒスベルヒの方面に注意し、マゾール地帶方面の敵の襲來は豫期しなかつた。然るに九月九日に至り突如獨軍は露軍陣地の左翼を襲撃したのでレツツエン東方の陣地は忽ち破られ、次で獨軍の騎兵師團は露軍の左翼を迂回して遠くゴルダツプ方面に進出したので、露軍の左翼は非常なる危險に陷りレンネンカンプ將軍は翌十日全線退却の已むなきに至り、東普を撤退して九月十三日遂に國境を越へて露國領地内に退却した。

〔露軍のガリシヤ侵入と墺軍の戰敗〕 ガリシヤ方面に向つた露軍南方軍の指揮官はニコラス・ルズスキー及びアレキシス・ブルシーロウ將軍で、其の兵力は總數十三、四箇軍團、兵數六十五萬と言はれ、中央軍の集中は幾分遲延したるも、南方軍の集中は極めて迅速に行はれ、約四十萬より成るルズスキー軍は八月十七日既に攻撃を開始し、ルツグ、ヴプノ附近からブロデー附近に進み、三十萬に近きブルーシロウ軍其の左翼に連つて同月二十二日國境を越へて前進した。同軍は墺の主力軍の側背を衝き、露の中央軍の攻勢に轉ずるを俟つて共に一擧にして墺軍を殲滅せんとした。之に對して墺軍の主力は作戰意の如くならず、露の騎兵先鋒隊は既に墺國々境を越へて二十三日ブロデーを占領し、次でタノボールを奪取し、二十五日進んでワロタ、リパ河の線を襲撃した。此線に陣地を築ける墺軍は之を阻止せんとしたるも陣地の工事未了にして苦戰一方ならず遂に渡河して後退しグニタリパ河の線に據つた。露のルズスキー軍はブロヂー、ソーカルの線を擊破してアウフエベルグを壓迫し、左翼をブルーシロウ軍と聯絡しつゝ墺軍と合戰し激戰二日に亘つて敵を擊退しグニタリパの線に進出した。墺軍又之に對して八月二十九日戰鬪準備を整へ了り、直ちに全線攻撃を開始し二日に亘りて猛烈に接戰した。墺軍はブローシロウ軍の爲め其の右翼を包圍攻撃されたので陣地に龜裂を生じ其一角より崩壞し初めて全線動搖を來たしたので夜に乘じて退却したるに、又もや優勝なる露軍の爲めに敗られ、連敗を重ね、退却又退却を續けて其主力はクラヤワ方面に、一部はカルパチヤ山脈方面に退却したが、露軍は飽く迄も敵の主力を追撃し九月二十日サン河を越へ二十一日ヤロスラウ市を占領し、其一部は進んでカルパチヤ山を越へて二十九日ウングボアール、フスツト附近に進出した。斯くしてガリシヤ東部及中部は完全に露軍の占領する所となつた。

〔プルツエミズル要塞攻圍戰〕 ガリシヤ方面に大勝を奏したる露軍は敗退せる墺軍を追ふてカルパチヤ山脈に進出し、獨軍がポーランドに向つて攻勢に出でんとするを知りて、直ちに主力をヴイスツラ右岸ワルソー、イワンゴロツト間に後退して堅固な陣地を據守し軍の一部を北方ポーランドに移し其大部分を以て北方ワルソー方面より獨軍の左翼を包圍する如く攻勢前進の準備を爲した。而して此準備の完成するや十月上旬露帝ニコラス二世は大纛をワルソーに進めた。斯くして一方ホーゼンに出陣せる獨帝と相對峙して將に雌雄を決せんとする戰場の壯觀を呈すべく、爲めに大戰史上一色彩を添ゆるを覺へしめた。露のルズスキー將軍は墺軍進擊を中止し北方ワ

主要なる交戰各國宣戰布告日一覽

一九一四年(大正三年)

塊太利	塞爾維	七月廿八日
獨	逸	露	四亞	八月一日
獨	逸	佛蘭西	八月三日
獨	逸	白耳義	八月四日
佛蘭西	獨	逸	八月四日
英吉利	獨	逸	八月四日
塊太利	露西亞	八月六日
黑山國	塊太利	八月七日
佛蘭西	塊太利	八月十日
塊太利	佛蘭西	八月十日
英吉利	塊太利	八月十二日
黑山國	獨	逸	八月十二日
塊太利	日本	八月廿三日
塊太利	白耳義	八月廿五日
土耳古	露西亞	八月廿九日
露西亞	土耳古	十月二日
英吉利	土耳古	十一月五日
佛蘭西	土耳古	十一月七日
白耳義	土耳古	十一月七日
塞爾維	土耳古	十一月七日
黑山國	土耳古	十一月十日

一九一五年(大正四年)

伊太利	塊太利	五月廿三日
サンマリノ	塊太利	六月三日
伊太利	土耳古	八月二十日
露西亞	勃牙利	十月七日
勃牙利	塞爾維	十月十四日
英吉利	勃牙利	十月十四日
勃牙利	露西亞	十月十六日
佛蘭西	勃牙利	十月十六日
伊太利	勃牙利	十月十八日
黑山國	勃牙利	十月十八日

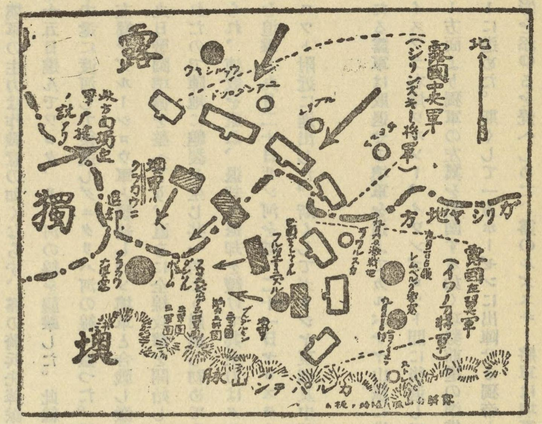
一九一六年(大正五年)

獨	逸	葡萄牙	三月九日
葡萄牙	獨	逸	三月十日
塊太利	葡萄牙	三月十六日
伊太利	獨	逸	八月廿八日
羅馬尼	塊太利	八月廿八日
獨	逸	羅馬尼	八月廿八日
羅馬尼	勃牙利	八月三十日
土耳古	羅馬尼	八月三十一日
勃牙利	羅馬尼	九月一日

一九一七年(大正六年)

米	國	獨	逸	四月七日
米	國	塊太利	四月九日

(已上世界大戰當時のカレンダー、ヒストリー誌より)



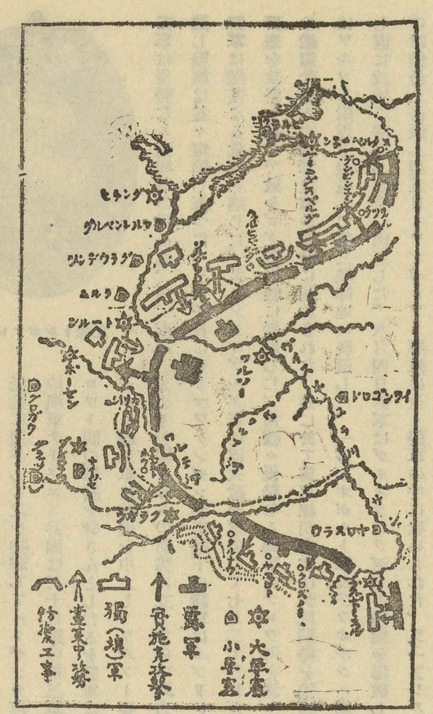
國境を越へて後方に退却した。十月二十日露軍は敵軍の退却を追うて前進し二十三、四日頃に至り獨軍の新陣地前に殺到した。此時獨軍右翼の一部は露の右翼軍主力の左翼に肉迫すべくヴイスツラ河を越へて露軍の一部と森林地帶に遭遇して一場の血戰を演じたるが結局獨軍は敗れて國境に退却した。爰に露軍の爲めに大敗せる塊軍は其後漸次部隊を整頓し、專ら士氣の振興に力め獨軍の計畫に策應し獨軍に續いて前進を開始した。然るに十一月五日に至り獨軍の退却に鑑みる所ありて主力を後方に撤退したが、斯くと知つて露軍は直ちに全力を以て之が追擊を開始し敵に多大の損害を與へ、爰に奪はれたるヤスロウを奪還し、兩びプルツエミズル要塞を占圍した。該要塞は爰に露の南方軍がガリシヤ侵入の當時、重圍に陷りたるも、其堅固なる施設と勇敢なる守兵の防戰とにより陷落を免れ、次で十月中旬同盟軍の攻勢に轉するに際し、一時露軍は攻圍を解いたのであつたが、今又塊軍を追擊してプルツエミズル要塞に入り再び攻城に着手し十一月九日全く攻圍戰線の編成を了つたが、塊軍は又出擊せんともせず、露軍も不活潑にて攻圍を持續するのみであつた。

〔ガリシヤの激戰〕 明けて一九一五年(大正四年)に入るや露軍總司令官ニコラス太公は約百個師團より成る全軍を、西北、西南の二軍に分ち、前者はルズスキー將軍之を率ゐ、後者はイワノフ將軍之を統べ、猛然攻勢を取りて行動を開始せんとした。一方獨軍のヒンデンブルグ元帥は敵軍をガリシヤより一掃して塊國の不安を除き、且つ敵を東普方面より驅逐し確實に領土を收得し進んでワルソー方面の要塞線を突破し、以て敵軍に致命的大打擊を加へんとの計劃の下に二月七日を以て東普方面の大攻擊を開始した。ガリシヤ方面に於ける露軍の主力は一月上旬南東部ボンガリヤ、並にブロヴイナ地方に殺到し其他の諸軍も西進して一月十六日ブコヴイナボンガリヤの分水嶺は悉く其掌裡に收めた。塊軍は此の情勢を見て直ちに之を邀擊すべき命を下し、其主力を以て露の三十軍團主力を討つべく大軍をキルリババ附近に出動せしめた。仍つて露軍は之を邀へて一回は擊退したるも、塊軍は屈せず、多大の援軍を招致して二十一日露軍をキンボルグ西方に擊退し勝に乘じてスチヤウアを奪回し、二月十八日ツエルノウイツツ附近に到達した。露の第三十軍團は優勢なる塊軍の壓迫を受けてプルート河の線に退却し全軍ドニエストル河の線に據りて敵の進擊を防止した。此間に於て露軍の增援軍は陸續戰線に到着した。

〔プ要塞の陷落。獨軍ガリシヤ突破〕 爰に猛烈なる露軍の攻圍を受けたるにも拘らず孤然として奮鬪を續けつゝありたるプルツエミズル附近に赴き又爰にプルツエミズル要塞を攻圍せる軍は其攻圍を解きて要塞の東南地區の陣地に據つた而して一方獨軍は其左翼の一部先づ攻勢に出で、南方ボーランド侵入軍に策應したので、露軍また活躍を開始し、交戰激烈を極めたが獨軍は露軍の爲めに敗られ

ヌル要塞の守備兵は爾來深く城内に蟄伏し野戰軍の來援を待ちつゝあつたが、一方攻圍軍は強ひて襲撃を行ひて兵士を損ぜんよりは持久的に城内の糧食盡きて出降を待つに如かずとし專ら陣地を固むるに力めた。斯くて一九一五年(大正四年)三月に至り要塞内の糧食漸次缺乏を告げ、今は軍馬を屠りて食料に充つるの已むなき窮境に至つたので、斯と見たる露軍の攻圍軍司令官イワノフ將軍は此機乘ずべしとして猛烈なる攻撃を開始した。要塞の守將クスマネク將軍は事玆に及んでは最早最後の決戰を試むるの一途あるのみと決意し、三月十八日各所の堡壘をして一齊に砲門を開かしめ、第二十三師團の兵を率ゐて自ら陣頭に現はれ、翌十九日出撃したるも遂に力盡きて其翌二十日午前六時遂に無條件の下に開城するに至つた。露軍は守備軍の司令官クスマネク大將を始め將卒其他を合して約十二萬の俘虜と大砲一千門を收め得たのであつた。如上要塞は遂に陷落して露軍はボンガリヤ平原を指呼の裡に俯瞰し得るに引換へて獨墺軍の不利は益々甚だしく、且つカルパチヤ山脈方面の戰況日に非なるのみならず、伊墺の國交又ます〳〵危機に迫り巴爾幹諸邦の形勢は愈よ險惡を加へたので、此儘になし置かば墺國の崩壞も測るべからず、玆に於て獨軍の司令官ヒンデンブルグ將軍は墺軍を助けんが爲めに援軍を派して中央突破を企て、之が突破を敢行する役割としてマツケンゼン大將を擢んじて命じた。此際に於ける獨墺の兵力は約百八師團騎兵十八師團を配備し、別に新編成に係る十四箇師團は臨時隨所に使用し得る狀態にあつた。一方之に對する露軍の兵力は約百十五師團にして、主としてカルパチヤ方面に向て攻勢を取つた。斯て獨軍は四月下旬全般の作戰準備を完了し五月一日を以て墺軍第四軍以南の諸軍は全線に亘つて攻撃を開始した。マツケンゼン將軍の指揮に在る第十一軍の活動は殊に壯烈を極め、夜間露軍陣地に接近して砲撃を行ひ、敵をして陣地修繕の遑なからしめたが露軍又之に對して善戰防禦に力めた。獨軍は翌朝拂曉より數時間に亘りて猛烈なる破壞砲撃を行ひたる後、更に歩兵の全線突撃を行ひ、敵の第一線陣地を突破し、尙進んで第二線を蹴破し、三日に至つて敵を第三陣地に壓迫した。翌四日露のコーカサス軍は露軍第三軍の危急を救はん爲め戰線に到着したるも頽勢を挽回する事が出來なかつた。斯て露軍はヴイスロカ河の線に退却し險地を賴みて玆に隊伍を整へ防戰に力めたが勝ち傲つた獨軍は決河の勢を以て進撃し、七日其の一部は更に敵線を突破してウイスロカ上流左岸の線に進出し、墺軍も亦退却せる敵軍を追蹤し、九日より十日にかけてマツケンゼン軍はヴイスロカの線をも突破したので、露軍は遂に潰裂してサン河の右岸に退却した。此の戰に於て獨軍の獲得せる俘虜は十萬餘に達し軍器の鹵獲も亦夥だしかつた。

【ワルソー陷落】 獨軍は豫期の如く露軍を擊退壓迫したるも、尙ブルツエミズルを始め、ヤロスラフ・レンベルヒを奪回せずんば已まざる決心を以て、更に敵を追及肉迫し五月中旬總攻撃を開始し怒濤の勢を以てサン河右岸に押寄せた。此時獨帝は親しく戰線に出馬し意氣揚々として將士を督勵する所あつた。斯くしてサン河に殺到せる獨軍はブルツエミズル要塞奪回を急としたるが恰も此際二十三日に至り伊太利が墺國に向つて宣戰を布告するに及んだので獨軍の爲めには更に一敵國を加ふる事となつたが、伊軍の前進し來る迄には地形險惡の爲め多少の時日を要するを以て、其間に於て猛烈なる砲撃を行ひてプ要塞に薄り三十日四十二珊砲の猛射を加へ、六月一日各堡壘は終に獨軍の奪取する所となり。翌二日市街は猛火の巷と化し守兵は悉く要塞を撤退しプ要塞は全く獨墺軍の手に收められた。次で獨軍は攻撃躡進を續行して六月二十二日レンベルヒも亦獨墺軍の爲めに奪回さるゝに至つた。斯てマツケンゼン大將のガリシヤ蹴破は功を奏し、ヒンデンブルグ將軍の劃策は豫期の成績を收めたが、ヒ將軍は尙進んでポーランドの首府たるワルソーの大要塞を屠るべく玆に大活劇は演ぜられんとした。是より先、ヒンデンブルク元帥はワルソー南方に於ける中央突破を企て百方劃策を凝らした。斯て五月に入るや其の麾下最左翼に陣したるペロー將軍は漸次前進を續け七月上旬ニーメン河岸より北方ウインダウ河の線に於て露の第五軍の對峙したるが、中旬に至り敵の攻撃を受けたが之を擊退し更に其主力を南轉して露軍北方の據守地たるリガに迫つたが、露軍は必死と防戰に力めた。此間に於て獨第十軍はゴウノ要塞攻撃を準備し、又ガルウイツ・ショルクの二軍は南方諸軍と策應して北方よりワルソーの脅威を企てた。七月十二日獨軍は總ての準備を了り翌十三日未明より砲火を開き露軍の陣地を震蕩せしめ、次いで歩兵の突撃を行ひて敵の第一線陣地を攻略し之をして第二線陣地に據るの暇なからしむる爲め急速に猛撃を加へ十八日その一部を破り遂に露軍をナレウ河北岸に後退せしめた。而して又獨第十四軍と墺第四軍は敵の戰線を遮斷したる以來、マツケンゼン將軍指揮の下に七月上旬右翼ブグ河畔に進出し、ベーム、エルモリー、リンシンゲン諸軍の右翼と聯絡し攻勢準備を爲し、尙前進を續けた。以上はワルソー攻撃の前戰である



ワルソー附近の戰局圖

獨逸レオポルト親王

斯てヒンデンブルグ軍は北方より、マツケンゼン軍は南方より共にワルソー、イワンゴロツトに向て前進し南北包圍の線は日に增し短縮された。而して一方露の第二軍と對峙したレオポルト親王軍及び露の第四軍と對したウオルシュ軍は七月中旬活動を開始し同十七、八の兩日に亘りウオルシュ軍は頑强なる露軍の抵抗に遭ひしも之を排擊してイトザンカ河の渡河點を奪取した。又レオポルト親王指揮下の獨軍ケーフエス兵團は二十日露の第三軍及び第四軍の聯絡點を衝きワルソー、イワンゴロツト間の聯絡を脅さんとしたるを露軍は之を逆襲したが効なく七月二十八日に至りレオポルト親王軍は前進を中止し、ワルソー要塞本防禦線に向つて攻擊の準備を急いだ。一方露軍は優勢なる獨墺軍の爲め北、西、南の三方より包圍さるゝの窮境に立つたので死力を竭して防拒せんとしたが、形勢は刻々危險に瀕し戰線は益々短縮し來つた。三十一日に至りマツケンゼン將軍麾下の諸軍はルブリン、ホルムを占領したのでイワンゴロツト附近の露軍は深甚なる危險を感じた。又ヒンデンブルグ軍は逐次敵を壓迫して七月二十三日ガルウイツク兵團はローシヤン、ブルツクスの兩要塞を攻略し進んで敵をブグ河の線に壓迫した。尙續々優勢なる獨軍はナレウ河を渡りて南下せんとし、ワルソー、ペテログラード間の鐵道幹線も亦獨軍追擊の前途に開放された。玆に於て露軍總司令官は到底頽勢を挽回する能はずとして後退するに如かずとて主力軍はワルソー附近を撤退して第二線陣地に後退した。一方レオポルト軍及びウオルシュ軍はイワンゴロツト要塞外堡壘線を襲擊して奪取し直に攻城に着手し要塞に肉迫した。八月四日露軍はヴイスラツラ河上の橋梁を爆破して東岸に撤退した。ケーフエス軍は直ちに西岸の諸堡壘を占領し翌五日イワンゴロツト要塞は全く獨軍の手に收められた。又一方ワルソー前面に向つたレオポルト軍は八月三日露軍をブロニー陣地より擊退して本防禦線內に走らしめたるが、露軍は既に要塞半火砲其他の重要材料をヴイスツラ東岸に移し、橋梁堡壘を爆發して巧に退却した。玆に於てレオポルト軍は殘壘を突破し五日未明ワルソー市街に殺到し、慘劇を演ぜずしてワルソーに入城した。斯くしてポーランド堅塞の稱を傲りたるワルソー要塞及びイワンゴロツトの要塞は遂に獨墺軍の陷落する所となりて西部ポーランドは悉く獨墺軍の手中に落ちた。」

コウカサス及メソポタミヤ方面戰

露國は大戰開始の當時より土耳古の態度につき、頗る危險を感じつゝあつたので、コーカサス方面に駐屯せる三軍團により一軍を編成して國境を警戒する所あつたが、一九一四年(大正三年)十月二十九日土國の軍艦がクリミヤ半島を攻擊するに及び、露國は機先を制して直ちに土領アルメニヤの首府エルサレムを奪取せんと企圖した。一方土軍は露軍がサリカミツシュよりエルサレムに進入することを慮り、一軍を以て南方より露の侵入軍の右側を衝き、更に北方バツーム方面に上陸して軍の背後を脅かさんとした。露軍は十月三十一日國境軍を四縱隊となして南進し、エルサレムに向ひたるも前進意の如くならず、十一月六日に至り土軍は步兵二箇軍團、騎兵一箇軍團半をエルサレム附近に集中し、同月十一日朝より露軍の陣地に向つて攻擊を開始した。玆に於て露軍は敵の優勢なるを知つて、決戰を避けコロサン地方に後退して陣地を固めたるが効なく、兩軍相對峙して時機の到るを俟つた。斯て其年は暮れ、明けて一九一五年(大正四年)一月二日の夜、露軍の增援隊は突如としてサリカミツシュの東北方に出現したので、不利の形勢にあつた露軍は頗る活氣づきて面目を革め、同時に土軍は不意の攻擊を受けて退却し、露軍は之を追擊して國境方面に驅逐し、土軍の一部は殆んど全滅の悲慘を見た。斯くの如くにしてコーカサス方面に於ける露土の會戰は結局露軍の勝利に歸した。

コーカサス方面圖

英國は開戰第一年に於て土耳古に向つて戰を宣すると同時に、ペルシヤ灣頭に於ける英國人を保護すべく印度軍を該灣頭に上陸せしめ、以て一擧にバグダツドを拔取せんとした。斯て十一月上旬デラメイン將軍の率ゐたる一箇旅團はシヤット・エル・アラブ河のフアオを略し進んでサニエ附近に上陸した。英將バレツト中將の率ゐたる印度軍は十一月中旬サニエに上陸してデラメイン軍に合し、水陸双方よりバスラを攻擊し、同月下旬一擧に同地を奪取し、更に北上してチグリス河畔なるメゼラを拔き、次でクルナをも占領した。翌一九一七年(大正六年)三月中旬に至り英軍は作戰効を奏してバグダツドを占領し、露軍も亦英軍に策應してケルマンシヤーを占領し、四月上旬英軍亦多大の困難を冒して地中海海岸なるパレスチナに前進し十二月上旬遂にエルサレムを占領した。

◎第十九輯豫告◎

口繪

◎『地中海に於ける我海軍の活躍』（遊就館藏）……荒井陸男氏畫

◎『大戰中の列國切手及び慈善切手』……

玻璃版

◎英帝及び伏見宮殿下の聯合軍御慰問……
◎米獨國交斷絶・米軍の參加……
◎各國の慘狀……
◎帝國海軍の地中海遠征……
◎商船の武裝とカモフラーヂ（迷彩）……
◎西部戰線の大決戰（一）……
◎西部戰線の大決戰（二）……
◎獨飛行船の襲撃……
◎壯烈なる空中戰……
◎ジーブルヂエの閉塞……
◎獨逸クルップ會社と長射程砲……
◎エルサレム入城と白耳義王の凱旋……
◎西比利亞出征・浦鹽派遣軍の出發……
◎浦鹽に於けるチエック軍……
◎浦鹽に於ける我派遣軍……
◎セミヨーノフ及カルムイコフ軍……
◎我軍の鹵獲品・出征軍慰問……
◎シベリヤに於ける第三師團……
◎休戰及び媾和……
◎獨逸潛航艇の引渡し……
◎世界大戰媾和會議……
◎媾和成立當日の巴里……
◎大戰中のポスター……
◎大戰中の婦人の職業……
◎大戰中の我赤十字社の活動……
◎各地の平和克復祝賀會……

記事

主として大戰後期の戰況を詳述し、西部戰線の經過、ヘルゴランド及びドッガーバンクの海戰、地中海に於ける日本海軍の活動、米國の參戰等より露、獨兩國の革命勃發より媾和會議に至る一切を收めて餘蘊なく第十八輯と合して詳細なる世界大戰史を爲すものである。

◎本第十八輯より愈よ世界大戰に入り次輯と合して大戰史を成すものである。セルビヤの一青年の放つた一發のピストルが、有史以來の大戰亂を捲き起し、世界中が總立ちとなつて、相戰ふ等と云ふ事は恐らく誰人も豫期しなかつた所であらう。三千七百七十二億圓と云ふ殆ど計算の出來ない天文學的數字と云はれる戰費を費やし、五ケ年に渉つて相鬪つて結局何物を得たかと云へば、何物もない。最初の中は獨逸の中立侵犯を責めて居たが、戰爭の中頃からは『戰爭を根絶する爲の戰爭だ』と云ふスローガンになつて來たのであるが結局聯合國側も協商國も御互に幸福になつたとは思へない。大戰の結果として國際聯盟は生れたが各國の戰後の疲弊が癒やされるに從つて聯盟の威力を疑ふ樣な事が起つて來て居る。

◎日本が大戰に參加して獨領の膠州灣を奪取して、三國干涉以來の懸案を解決し、進んで南洋諸島を占領して南進策に一の據點を作つた。日本海軍が正義に與みして聯合國側に加擔し彼のエムデン號を追躡して太平洋上を馳驅する事、實に二十萬哩に及んで居る。然して運送船を護送して危險なる航海を爲した事も數へ切れない程ある。

◎大戰の始、獨軍の巴里進擊に脅やかされた佛國からは、日本兵の出征を翹望する聲が、切りに起つたが、日本兵は他國の傭兵じやないから出兵する筈がなかつたが、それでも隨分日本兵出征論が唱へられたものである。

昭和十年四月廿日印刷納本
昭和十年四月廿五日發行
昭和十一年十一月十日四版發行

『幕末明治大正回顧八十年史』第十八輯
定價 金壹圓貳拾錢（朝鮮、滿洲、小笠原、樺太、臺灣及海外は送料別）

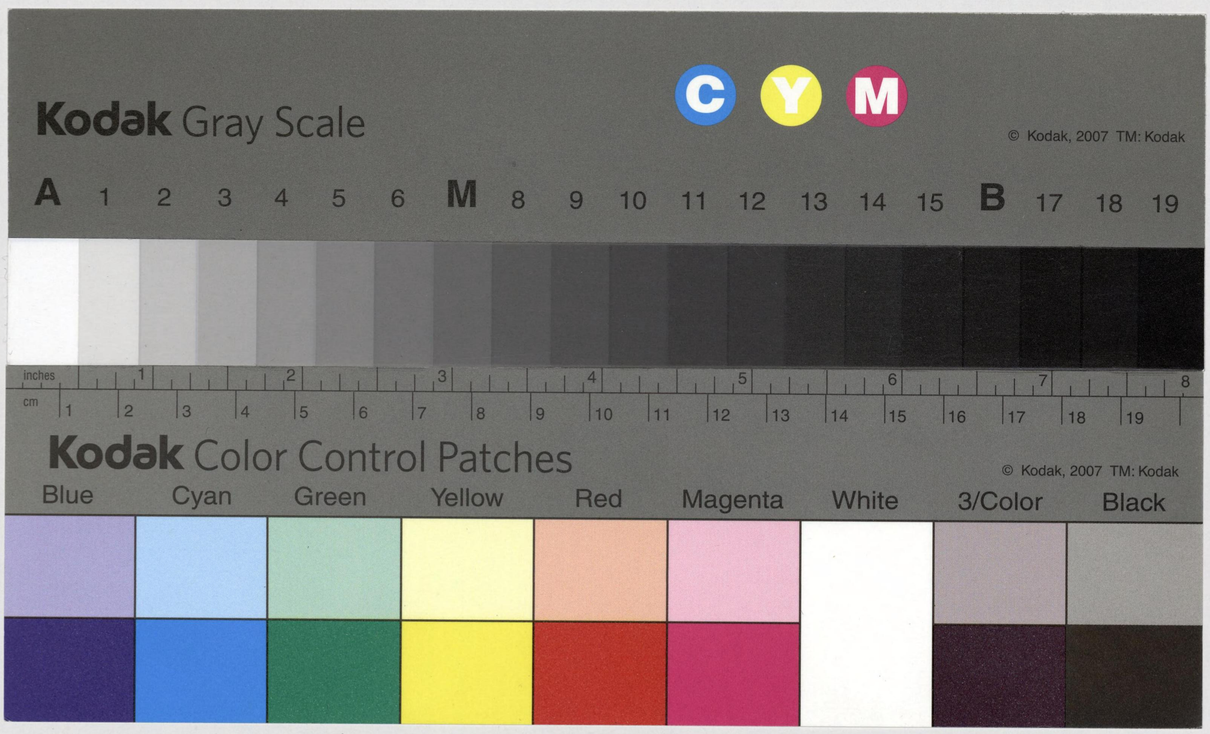
編輯兼發行者 東京市京橋區銀座五丁目四番地 大澤米造
印刷所 東京市神田區須田町二丁目十九番地 東洋文化協會印刷所
印刷者 東京市神田區須田町二丁目十九番地 早川一郎
印刷所 東京市小石川區西江戸川町十番地 井口印刷合名會社

發行所 東京市京橋區銀座五丁目四番地 東洋文化協會
電話 銀座(57)〇四〇七番
振替口座東京二八三四八番

不許複寫複製轉載

取扱所

大阪市北區堂島上三丁目三番地 關西一手販賣元 萬伸社 電話北二一八・二一九番 振替大阪三九八番
大阪市住吉區阿倍野筋五ノ六五 東洋文化協會關西支部
神戸市楠町二丁目二ノ一 文博社 電話元町一八三五番 振替大阪二七八三番
小倉市京町七丁目一一六番地 太湖社 電話一〇三六番 振替福岡一六八三番
大連市西公園町八九 東洋文化協會滿洲支社 電話二六三四九番 振替大連二六八八番
京城北米倉町九四 大正通信社 電話本局(二)七〇二番 振替京城七三四五番


Kodak Gray Scale
C Y M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black